

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第六百二十二條 請求力不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭

辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金銀差押ノ日ヨリ十四日

ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條 裁判所ハ事情屆書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其證據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權者ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要ス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備ヘ置ク可シ

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス若シ期日ニ出頭セサル債權者方他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シテ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラレルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤナ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナ

ル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命スヘシ

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ハ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金原ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘシ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ明確ニス可シ

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス
 第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス
 強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第二款 強制競賣

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示
- 第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ名義債務

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

- 第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書
- 第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書
- 第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書
- 第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書

第六 第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコト

ヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所

ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス
 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ
 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三

目ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ
債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ
期間内ニ債權者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競買手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムル
カ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得
ス

不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當ハ賣却ニ因リテ消滅ス(明治三十一年六月法律第

十一號第五十一條ヲ以テ第二項及第三項ヲ改メテ本項以下ノ三項トス)

留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責
ニ任ス

質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及質權者ニ對シテ
優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競買ノ申立アリタルコトヲ知リタルト
キハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ
限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競買ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競買手續ヲ續
行ス可シ

競買申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條 裁判所ハ競買手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競買ノ申立アリタルコトヲ登
記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不
動產上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲ送付ス可シ

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルル
トキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期限内ニ其障
碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ
期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條 裁判所ハ競買開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通
知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑
定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競買價額ト爲ス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競買價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔
及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競買手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競買期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條 競買期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 租稅其他ノ公課

第三 貸借借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃

第四 強制執行ニ因リ競買ヲ爲ス旨

第五 競買期日ノ場所日時及ヒ競買ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

第六 最低競買價額

第七 競落期日ノ場所及ヒ日時

第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十 利害關係人競買期日ニ出頭ス可キ旨

第六百五十九條 競買期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條 競落期日ハ競買期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條 競買期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ揭示板

第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

第六百六十二條 最低競買價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競買期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 競買期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメシコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價格十分ノ一二當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルト

キニ非サレハ其競買ヲ許サス

右申立ハ競買價格ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競買ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價格ヲ呼上ケタル後競買ノ終局ヲ告知ス可

第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價格ヲ呼上ケタル後競買ノ終局ヲ告知ス可

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

第六百六十七條 競買ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 不動産ノ表示

第二 差押債權者ノ表示

第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六 競買ノ終局ヲ告知シタル日時

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條 競買期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限りハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競買價額ヲ相當ニ低減シ新競買期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競買期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一 強制執行ノ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト

第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スニテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四 競買期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競買期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト
 第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト
 第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス
 第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但
 第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停
 止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ
 限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セザルトキニ限ル

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者
 ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス
 此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於
 テ更ニ競落ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ
 第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定
 ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第二百二十九條乃至第三百三十二條及ヒ第四百十四條ノ規定ヲ準用ス
 第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタル

トキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ
 裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産ノ競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價
 額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲ掲ケ可シ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ
 第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決
 定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競
 落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
 第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其中出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキコト
 ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由
 トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之
 ヲ爲スコトヲ得

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケララルコト無
 シ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方

ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ

裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ要ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメ

ンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者

ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ

不動産ノ再競買ヲ命ス可シ

最初ノ競買ノ爲ニ定メタル最低競買價額其他賣却條件ハ再競買ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競買期日ハ少クトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競買期日ノ三日前茅テ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競買手續ヲ

取消ス可シ

再競買ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サズ且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代

價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得

ス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競買ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競

買ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他人共有者ニハ其強制競買ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競買價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條 競買申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條ノ

規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ヲ抹消シ登記簿ニ囑託ス可シ

第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシム

ルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ

差出ス可シ

第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル日

ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出

ス可シ

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヲ定ム可シ

左ノモラヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生ズル場合ニ於テハ競落決定言渡

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求ス

ル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金利息費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當

表割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致

シタル下キハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定

ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債權者各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順

位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條第五百四十七條及ヒ第五百四十

八條ノ規定ニ從ヒ之ヲ完結ス

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受ケル外配當表ノ實施ニ際シ買入代

金ノ額ニ滿アル限リ該關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ヲ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受ケルコトヲ

得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ

之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ケ可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當

ノ異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記部事ニ送付シ左

ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人ノ負擔ス可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テ前數條ノ規定ヲ

準用ス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ヲ公告前利害關係人ヲ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競落ニ換ヘテ又

札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ

準用ス

第七百三條 入札ノ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

第二 入札人の氏名及居住所
 第三 不動産ノ表示
 第三 入札價額

第七百四條 執達吏ハ入札人以前面ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ期讀ス可シ
 二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシ以最高價入札人ヲ定
 一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札
 ハ之ヲ許サス
 第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求
 初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條第六百四十三條第六百四十四條第一項第三項及
 第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス
 不動産ノ債權者ハ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フ場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第
 二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者ガ占有スル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第
 第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者ガ管理人ハ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動
 産ノ收益ニ付キ處分タルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ヲ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三
 者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ收穫若シハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス
 開始決定ノ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
 第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理入申立アルモ更ニ開
 始決定ヲ爲スコトヲ得ス
 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト
 爲リタルハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス
 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス
 第七百九條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リテ裁判所ハ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セザル
 者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
 第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者ハ債務者及ヒ管理人ニ通
 知スベシ

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得
 管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自其不動産ヲ占有スル權利ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受ケルトキハ
 執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得
 管理人ハ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ヲ可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス
 第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シ以テ後又適當ノ場合ニ於テハ鑑定人ヲ立
 會ハシ以テ上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人
 ハ業務施行ヲ監督シ得
 裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ請スコトヲ妨ケル權利ヲ主張スルコトキハ第五百四
十條ニ規定スル所ニ依リテ

第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヲ其不動産ノ負擔ニ係ル租税其他必
課者控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ此殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ

協議調ハルルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定

ヲ適用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差

出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達スル後ヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲

スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ヲ爲シタルハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト

看做ス

異議ノ申立アルハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ

申立タル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理履行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキハ債權者ハ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁

判所ハ強制管理ノ取消ヲ命ズルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ

爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ナルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキ

ハ此限ニ在ラス

端舟其他艦艇ノミテ以テ運轉シ又ハ主シテ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行

裁判所トス

第七百十九條 船舶ノ執行手續申差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當

トス場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニ於テ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ

於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ証明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有効ナル各登記事項ヲ包含シ

タル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第三號ノ抄本請求アリシトキ執行裁判

所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監視及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシ

ム可シ

第七百二十二條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監視及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシ

ム可シ

第七百二十三條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監視及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシ

ム可シ

第七百二十四條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監視及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシ

ム可シ

第七百二十五條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監視及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシ

ム可シ

第七百二十六條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監視及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシ

ム可シ

第七百二十七條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監視及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシ

ム可シ

此處分チ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分チ續行スル爲メ債權者ガ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコト

第七百二十二條

船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨グス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶ガ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示場ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ヲ申請シ債務者ガ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用不可證明明證ヲ添附ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押スルニキリ又ハ登記簿ニ登記セザル船舶ヲ差押ヘタ下キハ登記簿ニ記入スベキ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金錢ノ支拂ガ目的トセサル債權ニ付テハ強制執行

第七百三十條 債權者ガ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條 債權者ガ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシムヘシ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人ヨリ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債權者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ヨリ保管ニ付ス

債務者ガ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シ其後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債權者ハ引渡ヲ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ

因民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス（明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第五十四條ヲ以テ本項ヲ改ム）

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生スヘキ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アリシコトヲ申立テモ得但し其行爲ヲ爲スニ因リ此言リ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨グス

第七百三十四條 債務ノ性質力強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲サザルキハ其遲延ノ期間ニ應ジ一定ノ賠償ヲ爲スヘキ又或ハ其損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命ズルコトヲ要ス（同上法令第十五條ヲ以テ本條ヲ改ム）

第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲スヘキコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ヲ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタリ後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲セザレバ判決ノ執行ヲ爲ス可キ能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲ス可キ者シキ困難ヲ生スル恐レズトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄スル管轄區ニ在リテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十條 假差押ノ申請ニ付テハ左ノ諸件ヲ掲ゲ可シ
第一 假差押ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラザルトキハ其價額
第二 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第三 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第四 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
第七百四十二條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第七百四十三條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第七百四十四條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得

第七百四十五條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第七百四十六條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第七百四十七條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第七百四十八條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第七百四十九條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得
第七百五十條 假差押ノ理由ハ何事實ヲ表示スルコトヲ得

假爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 假差押ヲ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス
 第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ヲ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ
 第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
 此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ
 異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條 異議ヲ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ
 裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一部分ノ認可變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立少可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得
 第七百四十六條 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經テ適當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ
 此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定メ可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得
 命令ハ假差押ノ取消ノ理由ヲ審判シテ之ヲ決定スルハ裁判所ノ職權ニ屬ス
 此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬セタルトキハ本案ノ裁判所ニ爲ス
 第七百四十八條 假差押ヲ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ヲ生ズルニキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サズ
 右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得
 第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス
 債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス
 債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達更ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス
 第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ
 第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ執行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之方爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ヲ取消シ命ズルコトヲ得

有裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ハ權利ノ實行ヲ爲ス可ク能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ヲ生スル下キ此限ニ在ラズ

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ヲ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百五十八條 假處分ニ於テ口頭辯論ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假シ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其他處分ハ殊ニ繼續ナル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ヲ當否ニ付テ口頭辯論ヲ爲メ本案ヲ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ハ期間中定メ假處分ヲ命スルコトヲ得

此間期ヲ經過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其論シタル假處分ヲ取消ス可キ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於テ本案ヲ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲サシムル時キハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條 公示催告ハ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キ下キハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

- 第一 申立人ノ表示
- 第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出シ可キコトノ催告
- 第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示
- 第四 公示催告期日ノ指定

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百七十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利爭争ワコトハ届出アリタル時其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テハ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十二條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六个月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲ス可キコトヲ得

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公示ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ其期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五个月ノ滿了後ハ此訴ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十六條 裁判所ハ第二百十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命ス

ルコトヲ得

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス
此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケザル限リハ之ヲ適用ス

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ
此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セザルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス
證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記籍ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條 申立人ハ申立ノ證據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ

旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ
除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其中立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セザルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書
面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ備
告ス可シ

右期間ヲ経過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス
第七百九十一條 當事者ハ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對テ其選定
ニ關東セラル

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ缺席
シ又ハ其職務ノ引受若クハ履行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人カ選定シタル當事者ハ相手方ノ備告
ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ経過シタルトキハ管轄裁判所ハ其備告
ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避ス
ルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其實務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ
忌避スルコトヲ得

無能力者、弱者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條 仲裁契約ハ當時者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サレトキハ其效力
ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因
リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不

當ニ遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關
係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ヲシ

第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當
事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述ブルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場
合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有
效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト仲裁契約カ判斷ス可キ余ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職
務ヲ履行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲スコシ但仲
裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人ノ之ニ署名捺印ス可シ
仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁
判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス
第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ

第二 仲裁判斷ノ法律上禁止ノ行為ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ
仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由
ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行裁判ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキ
限リ之ヲ爲スコトヲ得
右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ由リ
テノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張
スル能ハザリシコトヲ証明シタルトキニ限ル

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ
右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知りタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラ
サルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五午年ノ滿了後ハ其訴ヲ起スコトヲ

許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可
カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契
約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場
合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス
前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判
所之ヲ管轄ス

民事訴訟法施行條例

(明治二十三年七月法律第五十號)

朕民事訴訟法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘ
キコトヲ命ス

民事訴訟法施行條例

第一條 民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ
完結ス

第二條 民事訴訟法實施前ニ闕席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ故障ヲ申立ツ
ルコトヲ得

故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキ
ハ其期限ニ從フ

第三條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ
第四條 民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續ノ結了マテハ舊法ニ從フ
第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得
第七條 民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス
第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スルモノハ當分ノ内刑法ノ親族例ニ依ル
第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ内其慣例ニ從フ

第十一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ内效力ヲ有スルモノトス
第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トアルヲ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内效力ヲ有スルモノトス

〔參照〕 明治八年第六號布告ハ負債者失踪後ノ訴訟成例 又明治十年第九號布告ハ民事上告豫納金規則ニシテ其第十六條ハ次篇(第二編)第四章(上告豫納金)ノ首頭ニ之ヲ收載シタリ

第二編 民事訴訟ニ關スル法規

第一章 訴訟上國ノ代表者

民事訴訟法第十四條ニ因リ國ヲ代表スル者

(明治二十四年一月勅令第三號)

朕民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 各省鐵道院樺太廳北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス(明治二十五年勅令第六號、同四十二年同令第六十號及第三百三號、同四十二年同令第三百六十六號ヲ以テ條中改正)

但シ韓國ニ於テ經營スル鐵道事務ニ係ル民事訴訟ニ付テハ韓國鐵道管理局國ヲ代表ス(明治四十三年勅令第九號ヲ以テ本但書ヲ置ク)

第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得(明治二十五年勅令第六號ニテ條中改正)

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス(同上)

第四條 官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルトキハ本令ニ依ルノ

限ニ在ラス

同 上

(明治二十五年四月内務省令第四號)

「鐵道廳」土木監督署衛生試驗所「及集治監」ハ各其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス但明治二十四年(七月)内務省令第九號同年(十一月)内務省令第二十號ハ廢止ス(明治二十八年内務省令第十一號ヲ以テ「及集治監」ノ四字ヲ加フ)

〔參照〕 明治二十四年内務省令第九號及第二十號ハ本令ト同伴ナリ

同 上

(明治二十五年二月大藏省令第二號)

本年勅令第六號第二條ニ依リ造幣局及各稅關ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者左ノ通相定ム
造幣局及各稅關ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

同 上

(明治三十五年十一月大藏省令第二十七號)

稅務監督局及稅務署ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ施行ス

同 上

(明治四十年九月大藏省令第三十八號)

專賣局、專賣局支局、專賣局製造所ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス(明治四十二年三月大藏省令第十二號ヲ以テ本令中ニ改正ヲ加フ)

附則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ施行ス

同 上

(明治三十五年二月陸軍省令第三號)

明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ陸軍經理部ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
(明治四十一年八月陸軍省令第十四號ヲ以テ本令改正)

同 上

(明治二十六年七月海軍省令第四號)

明治二十五年(三月)海軍省令第一號左ノ通改正ス
鎮守府「及鎮守府監督部」ハ各其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

同 上

(明治二十五年四月司法省令第五號)

司法官廳ヨリ起スヘキ民事ノ訴訟ニ於テハ明治二十五年勅令第六號第二條ニ依リ訴訟ヲ受クヘキ
裁判所ノ檢事局ヲシテ國ヲ代表セシム

同 上

(明治三十六年三月司法省令第九號)

各監獄ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

同 上

(明治三十年十二月文部省令第二十八號)

帝國大學文部省直轄諸學校並帝國圖書館ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
同 上 (明治四十一年一月農商務省令第一號)

製鐵所、特許局、大林區署、鑛山監督署、農事試驗場、工業試驗所、生絲検査所、花筵検査所、蠶業講習所、水産講習所、糖業改良事務局(東京出張所ヲ除ク)ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス(明治三十九年七月農商務省令第十九號ヲ以テ本號中ニ改正刪補ヲ加フルトコトアリ)

一 明治二十五年農商務省令第一號第八號及明治二十九年農商務省令第二號ハ廢止ス
〔參照〕 明治二十五年農商務省令第一號ハ大林區署其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ就キ國ヲ代表スルノ件、同年農商務省令第八號ハ鑛山監督署同上代表ノ件、同二十九年農商務省令第二號ハ生絲検査所同上代表ノ件ナリ

同 上 (明治四十一年三月遞信省令第十二號)

明治二十五年(一月)勅令第六號第二條ニ依リ各一等郵便局ヲシテ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表セシム但シ國ヨリ訴ヲ提起スル場合ニ於テ其訴ヲ受理スヘキ裁判所カ當該一等郵便局ノ管轄區域外ニ在ルトキ又ハ同一人ニ對シ提起スル訴訟ニシテ二以上ノ一等郵便局ノ司掌事務ニ關スルトキハ此ノ限ニアラス

附則
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年(一月)遞信省令第三號ハ之ヲ廢止ス
〔參照〕 明治二十五年遞信省令第三號ハ本令ト同伴ナリ

臺灣總督府各官廳ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件

(明治三十一年七月勅令第八十一號)

朕臺灣總督府各官廳ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣總督府、縣、廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ依ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條 臺灣總督府ハ府令ヲ以テ所屬特別地方機關ヲ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定ムルコトヲ得

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

同上法令ニ依リ國ヲ代表スル官署

(明治三十四年七月臺灣總督府令第五十號)

臺灣總督府一等郵便電信局ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス(明治三十五年一月臺灣總督府令第八號ヲ以テ各一、二等郵便電信局「チ」一等郵便電信局「ニ改ム」)

同 上 (明治三十六年九月臺灣總督府令第六十四號)

臺灣總督府專賣局ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

統監府及所屬官署民事訴訟上國ヲ代表スルノ件

(明治三十九年七月勅令第百八十四號)

朕統監府及所屬官署ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 統監府ハ其所管又ハ監督スル事務一係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條 統監ハ統監府令ヲ以テ所屬官署中其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

同上法令ニ依リ國ヲ代表スル官署

(明治三十九年統監府令第二十四號)

本府所屬官署ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者左ノ通定ム

理事廳、統監府鐵道管理局、統監府通信監理局、統監府營林廠、統監府特許局、統監府司法廳、統監府裁判所、統監府裁判所檢事局及統監府監獄ハ各其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス(明治四十一年統監府令第三十二號及明治四十二年統監府令第四十號ヲ以テ本令中ニ訂正削除ヲ加フルトコロアリタリ)

關東都督府及所屬官署ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スルノ件

(明治四十年三月勅令第五十七號)

朕關東都督府及所屬官署ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 關東都督府ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條 關東都督ハ府令ヲ以テ所屬官署中其ノ司掌ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定ムルコトヲ得

第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲ス者ハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス

同上法令ニ依リ國ヲ代表スル官署

(明治四十年七月關東都督府令第三十九號)

明治四十年勅令第五十七號第二條ニ依リ關東都督府民政署、關東都督府郵便電信局及關東都督府法院ハ各其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二章 訴訟用印紙

民事訴訟用印紙法

(明治二十三年八月法律第六十五號)

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口

述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ
第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價格ニ應ジ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ(明治四十三年法律第十五號ヲ以テ印紙金額ヲ改メ且非常特別稅法中民事訴訟用印紙ニ關スル規定ヲ廢止ス)

- 訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十五錢
 - 同 十圓マテ 四十錢
 - 同 二十圓マテ 八十錢
 - 同 五十圓マテ 一圓八十錢
 - 同 七十五圓マテ 二圓五十錢
 - 同 百圓マテ 三圓五十錢
 - 同 二百五十圓マテ 七圓
 - 同 五百圓マテ 十二圓
 - 同 七百五十圓マテ 十五圓
 - 同 千圓マテ 十八圓
 - 同 二千五百圓マテ 二十五圓
 - 同 五千圓マテ 三十圓
 - 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ三圓ヲ加フ
- 訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額ヲ百圓ト看做シ印紙ヲ貼用スヘシ
財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價格ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的方同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額以上告狀ニハ其金額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢以印紙ヲ貼用ス可シ

- 第一 抗告
- 第二 故障
- 第三 證據調ノ申立
- 第四 假差押及ヒ假處分ノ申請
- 第五 判決以テ送達アラントテ求ムル申立
- 第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第六條 支拂命令ノ申請ニシテ訴訟物ノ價額十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ第二條ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用ス可キ印紙金額ノ半額ノ印紙ヲ貼用ス可シ(同上法律ニテ全條改正)

第六條 左ニ掲クル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ四十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ(同上法律ニテ本條新置)

- 一 未期日之變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立
- 二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
- 三 從參加ノ申請
- 四 忌避ノ申請
- 五 和解ノ申立
- 六 費用額確定ノ申請
- 七 假執行宣言ノ申立
- 八 強制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立
- 九 配當要求
- 十 家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立
- 十一 強制競賣又ハ強制管理ノ申立
- 十二 債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請
- 十三 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立
- 第六條ノ三 左ニ掲ケル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ二十圓ナ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ(同上)
- 一 抗告
- 二 故障
- 三 證據ノ申立
- 四 假差押又ハ假處分ノ申請

五 判決送達ノ申立

- 六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但二通以上ヲ求ムルトキハ一通毎ニ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴力區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ
- 民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依リ訴力區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テハ第六條ニ依リ貼用シタル印紙ノ額ハ訴訟ニ付キ貼用ス可キ印紙ノ額ニ之ヲ通算ス可シ(同上法律ニテ本項ヲ新置ス)
- 第八條 再審ヲ求ムルノ訴訟ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價格二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ(同上法律ニテ全條改正)
- 第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得
- 第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル
- 第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコトヲ許サス
- 第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印

上告ヲナスニ付テ得ス(明治二十三年法律第五十號第十二條ヲ以テ「大審院」トアルヲ上告裁判所ト改ム)

第一條 若シ上告ヲ取上ケサルトキハ其預リ金ヲ没入ス

第二條 若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破毀シタル時ハ預リ金ヲ還付ス

第三條 若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對稱シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル時ハ預リ金ヲ没入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム(被告人トハ上告者ノ相手方ヲ云)

第五章 訴訟費用

民事訴訟費用法

(明治二十三年八月法律第六十四號)

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟費用法

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第三條 圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十二條 鑑定ヲ爲スニ付キ別ニ支出シタル費用ハ其實費ニ依ル

第十三條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金二十五錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス

第十四條 當事者、證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス

第十五條 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十六條 外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十七條 判事及ヒ裁判所書記検査ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ滞在費ハ證人ニ準ス

第十八條 本法ニ定メザル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十九條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關スル費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數

第二十條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關スル費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數

條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス
強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第六章 特別

第一節 臺灣ニ於ケル特別

第一款 民事訴訟特別手續

民事訴訟特別手續 (明治三十八年七月律令第九號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル民事訴訟特別手續勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス
民事訴訟特別手續

第一條 地方法院ニ於テハ裁判所構成法中區裁判所ノ管轄ニ屬セシメタル事項ニ付テハ民事訴訟法中區裁判所ノ訴訟手續ニ依ル

第二條 辯護士ノ在ルトキト雖當事者ハ法院ノ許可ヲ得テ訴訟能力者タル親族若ハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第三條 送達ハ之ヲ受クヘキ人ニ假住所ニ於テ出會ハサルトキハ假住所ノ主人又ハ成長シタル同居ノ親族若ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 法院書記カ送達ヲ受クヘキ者ニ法院内ニ於テ書類ヲ交付シ受取證ヲ差出サシメタルトキ

ハ送達ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ズ

第五條 期日ノ變更又ハ期間ノ伸長ハ當事者合意ノ場合ニ於テモ顯著ナル理由アルニアラサレハ之ヲ許サズ

第六條 法院ハ本島ニ住居セザル當事者ノ爲民事訴訟法ノ規定ニ依ラス法律上ノ期間ニ相當ノ伸長ヲ爲スコトヲ得

第七條 訴訟關係人カ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキハ期日呼出ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ズ

第八條 事件差戻ハ判決ヲ受ケタル當事者カ其判決言渡ノ日ヨリ三箇月内ニ第一審法院ニ口頭辯論期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ本訴及反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス

第九條 訴訟手續休止ノ合意ハ書面ヲ以テ法院ニ届出ツルコトヲ要ス
合意上ノ休止又ハ口頭辯論期日ニ當事者双方出頭セサル爲生シタル休止ノ場合ニ於テ三箇月内ニ口頭辯論ノ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ本訴及反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス

第十條 訴ハ何時ニテモ之ヲ取下ケルコトヲ得但シ反訴アリタルトキハ被告ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
再度以上ノ休止ニシテ前後ヲ通算シテ三箇月ヲ超ユルトキ亦同シ

第十一條 訴ノ取下アリタルトキハ反訴ハ其效力ヲ失フ但シ被告カ反訴ヲ繼續セシムル意思ヲ表示シテ取下ニ同意シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 反訴ハ其ノ目的カ本訴ノ目的又ハ防禦ノ方法ト法律上牽連スルニアラサレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第十三條 判決ハ職權ヲ以テ之ヲ送達ス

判決ヲ送達ハ其正本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第十四條 再度ノ開席判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十五條 證據調ノ申請及其決定ハ口頭辯論期日前ト雖之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 證據決定中一部ノ證據調ニ依リ結果ヲ得タルトキハ他ノ證據調ヲ省畧スル決定ヲ爲スコトヲ得

第十七條 受命判官又ハ受託判官ハ檢證ノ場合ニ於テ職權ヲ以テ又ハ申立ニ依リ法院ノ決定ヲ待

ズ檢證事項ニ關シ證人ヲ訊問シ及鑑定ヲ命スルコトヲ得

第十八條 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料シタルトキハ法院ハ勾引狀ヲ發シ豫審判官ニ送致スルコトヲ得

第十九條 必要ト認ムル場合ニアラザレハ豫メ證人ニ訊問事項ヲ告知スルコトヲ要セス

第二十條 證人及鑑定人ハ之ヲ忌避スルコトヲ得ス

第二十一條 證人及鑑定人ノ旅費日當及立替金ハ訊問期日又ハ鑑定ノ終リタル後一箇月内ニ其拂渡ヲ求ムルコトヲ要ス

第二十二條 控訴期間ハ十四日トス

第二十三條 區裁判所ノ訴訟手續ニ依ル訴訟ニ付テハ判決言渡ノトキ當事者双方在廷シタル場合ニ限リ控訴期間ハ其言渡ヲ以テ始マル判官ハ言渡ヲ爲スノ際控訴期間ヲ告示スベシ

前項ノ場合ニ於テハ判決ハ申立ニ因リ之ヲ送達ス

第二十四條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審法院ニ差出シテ之ヲ爲ス

控訴ノ提起アリタルトキハ書記ハ七日内ニ訴訟記録ト共ニ控訴狀ヲ覆審法院ニ送付スヘシ

第二十五條 覆審法院ニ於テ事件ニ付仍辯論ヲ必要トシ差戻スヘキ場合ニ於テモ當事者合意ノ申立アルトキハ直ニ本案ノ辯論及判決ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 口頭辯論ニ於テ爲シタル請求ノ認諾ニ付テハ強制執行ヲ爲スコトヲ得其ノ手續ハ法院ニ於テ爲シタル和解ニ關スル強制執行ノ手續ニ依ル

附則

本令ハ明治三十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ進行ヲ始メタル期間ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期ハ本令施行ノ日ヨリ起算シテ本令規定ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本令ノ規定ニ從フ

民事上ノ訴ニシテ明治二十八年五月八日以前ニ訴權

ノ發生シタルモノハ受理セス (明治三十二年一月律令第一號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル民事上ノ訴ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

民事上ノ訴ニシテ明治二十八年五月八日以前ニ於テ訴權ノ發生シタルモノハ地方法院ニ於テ之ヲ受理セス

本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ施行ス(明治三十二年三月律令第五號ヲ以テ四月十十日ニ改ム)

第二款 訴訟用印紙

民事訴訟用印紙規則 (明治三十一年六月律令第六號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル民事訴訟用印紙規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

民事訴訟用印紙規則

第一條 民事訴訟用印紙規則ニ依リ其正本ニ印紙ヲ貼用スヘシ但法院書記ニ口述シテ調書

ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價格ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

訴訟物ノ價格金十圓マテ 三十錢

同 五十圓マテ 一圓五十錢

同 百圓マテ 三圓

同 五百圓マテ 十圓

同 千圓マテ 十五圓

同 五千圓マテ 二十五圓

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ三圓ヲ加フ

第三條 訴訟物ノ價格ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ從フ但其規定ナキ場合ニ於テハ法院ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第一 訴訟物ノ價格ハ起訴ノ日時ニ於ケル價格ニ依リ之ヲ起算ス

第二 果實損害賠償及訴訟費用ハ法律上相牽連スル主タル請求ニ附帶シ一ノ訴ヲ以テ請求ス

第三 前項ノ請求數箇ノ請求ヲ爲ストキハ前項ニ掲クルモノヲ除ク外其額ヲ合算ス

第四 債權ノ擔保又ハ債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權カ訴訟物ナルトキハ其債權ノ額ニ依ル但物權ノ目的物ノ價格寡キトキハ其價格ニ依ル

第五 地役カ訴訟物ナルトキハ要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ價格ニ依ル但地役ノ爲承役地ノ價格ノ減シタル額カ要役地ノ地役ニ依リ得ル所ノ價格ヨリ多キトキハ其減額ニ依ル

第六 貸貸借又ハ永貸借ノ契約ノ有無又ハ其時期カ訴訟物ナルトキハ爭アル時期ニ當ル借貸ノ額ニ依ル但一箇年借貸ノ二十倍ノ額カ右ノ額ヨリ寡キトキハ其二十倍ノ額ニ依ル

第七 定時ノ供給又ハ收益ニ付テノ權利カ訴訟物ナルトキハ一箇年收入ノ二十倍ノ額ニ依ル但收入權ノ期限定マリタルモノニ付テハ其將來ノ收入ノ總額カ二十倍ノ額ヨリ寡キトキハ其額ニ依ル

第四條 財産權上ノ請求ニアラサル訴訟ハ三圓ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第五條 本訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ其ノ反訴ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及假處分ノ申請

第五 判決ヲ送達アラシムトテ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ敷通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

第七條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲スヘキ法院ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第八條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出スヘキ法院ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル場合ノ外此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ヲ有セラズ但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ法院ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效トシムルコトヲ得

第十一條 第六條第九條及第十條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス(同上法令ヲ以テ本條全體ヲ改ム)

第十二條 (同上法令ヲ以テ本條ヲ削ル)

第十三條 (同上)

第十四條 (同上)

附則

第十五條 此規則ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス

同 施行細則 (明治三十一年六月臺灣總督府令第三十四號)

民事訴訟用印紙規則施行細則左ノ通相定ム

民事訴訟用印紙規則施行細則

第一條 民事訴訟用印紙規則ニ依リ貼用スル印紙ノ種類定價ハ左ノ如シ

淡黑色印紙	一枚	三錢
黑色印紙	同	五錢
赭色印紙	同	十錢
茶褐色印紙	同	五十錢
黃色印紙	同	一圓
青色印紙	同	五圓
橙黃色印紙	同	十圓
綠色印紙	同	十五圓
嬌栗色印紙	同	二十圓

第二條 訴訟用印紙ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ法院所在地ニ賣捌所ヲ定メ縣、廳ニ願出テ免許證

札ヲ受クヘシ
賣捌人賣捌所ヲ變更セントスルトキハ更ニ縣、廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 賣捌人ハ縣廳ヨリ印紙ヲ拂受ケ之ヲ各需用者ニ印紙ノ定價ヲ以テ賣捌クモノトス

第四條 印紙ノ拂下ハ其額面ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ爲スヘシ

第五條 印紙ハ其代金ヲ納付ノ上之ヲ下渡スヘシ
賣捌人ハ印紙損傷又ハ汚染シタルトキ若ハ不用ニ歸シタルトキハ縣、廳ニ其交換又ハ買

戻ヲ請求スルコトヲ得

前項印紙ノ交換又ハ買戻ヲ爲スニハ其印紙ノ額面ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ以テ印紙ヲ下渡シ又

第六條 賣捌人ニ都合ノ行爲アルトキハ賣捌ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七條 賣捌人賣捌所ヲ變更シ若ハ改名等ニ依リ免許鑑札ノ書換ヲ要スルトキ又ハ免許鑑札ヲ失却毀損シタルトキハ縣廳ニ其書換若ハ再渡ヲ請フヘシ

第八條 賣捌人賣捌許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキハ速ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第九條 賣捌人ハ印紙受拂簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及年月日ヲ記載スヘシ

第十條 賣捌人ハ免許鑑札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

免許鑑札雜形(木製縱二尺五寸横八寸縣廳ノ烙印ヲ施スヘシ)
(雜形ハ之ヲ略ス)

第三款 争訟調停

廳長ヲシテ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル件

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル廳長ヲシテ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

廳長ヲシテ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル件 (明治三十七年二月律令第三號)

第一條 澎湖廳長ハ恆春廳長及臺東廳長ハ宜シ管轄區域内ニ於ケル左ノ事項ヲ取扱フ

澎湖 民事争訟調停

第二條 公證登記其他ノ非訟事件ハ該管區域内ニ於ケル民事争訟調停等ノ手續ニ依リテ之ヲ取扱フ

第三條 前項各款ノ事件ハ該管區域内ニ於ケル民事争訟調停等ノ手續ニ依リテ之ヲ取扱フ

第四條 民事争訟調停ノ調停成立シタルトキハ廳長ハ調書ヲ以テ之ヲ明確ナラシムヘシ

第五條 調停成立後該管區域内ニ於ケル民事争訟調停等ノ手續ニ依リテ之ヲ取扱フ

第六條 調停成立後該管區域内ニ於ケル民事争訟調停等ノ手續ニ依リテ之ヲ取扱フ

第七條 調停成立後該管區域内ニ於ケル民事争訟調停等ノ手續ニ依リテ之ヲ取扱フ

第八條 調停成立後該管區域内ニ於ケル民事争訟調停等ノ手續ニ依リテ之ヲ取扱フ

第九條 附則 施行期

本令ヲ施行期日ニ至ル迄ハ舊法ニ依リテ之ヲ取扱フ(明治三十七年三月臺灣總督府令第三十二號ヲ以テ此施行期日ヲ明治三十七年四月二日指定シタリ)

廳長ヲシテ民事争訟調停ヲ取扱ハシムル律令施行細則

第一條 廳長ハ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル律令施行細則左ノ通相定ム(明治三十八年臺灣總督府令第五十二號)

第二條 廳長ハ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル律令施行細則左ノ通相定ム(明治三十八年臺灣總督府令第五十二號)

第三條 廳長ハ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル律令施行細則左ノ通相定ム(明治三十八年臺灣總督府令第五十二號)

第四條 廳長ハ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル律令施行細則左ノ通相定ム(明治三十八年臺灣總督府令第五十二號)

第五條 廳長ハ民事争訟調停等ヲ取扱ハシムル律令施行細則左ノ通相定ム(明治三十八年臺灣總督府令第五十二號)

第一條 民事訴訟調停ノ申請ハ被申請人居住地ヲ管轄スル地方廳ニ書面ヲ以テ爲スヘシ（但シ不
動産ノ争訟ニ付テハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ申請スヘシ）

争訟價格百圓未満ノ事件ハ口頭ヲ以テ申請スル事ヲ得此ノ場合ニ於テハ調書ヲ作リ申請人等
テ之ニ署名捺印セシムヘシ

第二條 地方廳ハ前條ノ申請アリタルトキハ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スル事ヲ得
前項ノ場合ニ於テ被申請人他廳管内ニ移住シタル時ハ事件ヲ其ノ管轄地方廳ニ移送スル事ヲ得

第三條 民事訴訟調停ニハ代人ヲ用キルコトヲ得ス但シ廳長ノ許可ヲ受テ親族又ハ雇人ヲ以テ代
理セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第四條 民事訴訟調停ノ調書ハ左ノ條件ヲ掲クヘシ
第一 當事者及代人ノ氏名、身分、職業、住所

第二 申請人請求ノ要旨

第三 被申請人答辯ノ要旨

第四 調停ノ成立事項及履行ノ期日

第五條 民事訴訟調停調書ノ原本ハ年月日ヲ記載シ當事者ヲシテ署名捺印セシメ廳長署名捺印
シ且廳印ヲ捺捺スル事ヲ得

第六條 當事者ノ調停調書ノ原本ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第七條 民事訴訟調停ノ申請人指定ノ期日ニ正當ノ理由ナク出頭セサルトキハ取下ケタルモノト
看做ス

被申請人期日ニ出頭セサルトキハ更三期日ヲ定メ之ヲ呼出スヘシ

新期日ニ仍出頭セサルトキハ調停成立セサルモノト看做ス

正當ノ理由ナク期日ニ出頭セサル者ハ廳令ノ定ムル所ニ依リ處罰スルコトヲ妨ケス

第八條 民事訴訟調停ニ關スル費用ハ第二條ニ定ムル場合ヲ除ク外當事者ノ追辦トス

第二章 公證登記其ノ他非訟事件
第九條 公證事務ニ關シテハ公證規則及其ノ附屬法令ヲ準用ス

第十條 登記其ノ他非訟事件ニ關シテハ臺灣不動産登記規則非訟事件手續法及其ノ附屬法令ヲ
準用ス

第十一條 船舶ノ登記ニ關シテハ明治四十一年律令第十二號及其ノ附屬法令ヲ準用ス

第三章 執行
第十二條 民事訴訟調停ノ執行ハ第十三條乃至第二十條ニ規定スル外民事訴訟法
第五百四十九條第四號ニ掲グル債務名義ニ因リ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 執行ハ執行文ヲ附シテ執行調書ノ原本ニ基キ之ヲ爲ス

第十四條 執行ヲ申請スル者アルトキハ廳長ハ調停調書原本ノ末尾ニ左記文式ニ依リ執行文ヲ附
記シ之ヲ付與ス

第十五條 民事訴訟調停ノ執行ハ爲ス場合ニ於テハ調停調書ノ送達ヲ爲ス時附記
名印

債務者ノ一般ノ承継人ニ對シ執行ヲ爲ス場合ニ於テ債權者其ノ執行前調停調書ノ謄本ヲ送達スルコトヲ要ス

第十六條 強制執行ニ關スル規定中異議申立及異議ノ訴ハ廳長之ヲ裁決收服シ得テ其ノ裁決ニ對シ不服アリト認ムルトキハ執行ノ停止又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 廳長ハ左ノ場合ニ於テ申立ニ依リ其ノ事實アリト認ムルトキハ執行ノ停止又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

一 執行ノ方法又ハ執行ノ際ニ執行吏ノ遵守スルべき手續違法ナリシ場合ニ於テ

二 執行ノ目的物ヲ付所有權其ノ他目的物ノ讓渡若シテ引渡妨クル權ヲ行使得電滯留書類ヲ添ヘ證明シタルトキ

第十八條 前條第一號ノ場合ニ於テハ執行處分ナ一時停止シ判決確定ノ後既ニ爲シタル執行處分ヲ取消シ又ハ之ヲ續行スルノ第二號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル違法處分ヲ取消スルヲ第廿九條ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消スルヲ

第十九條 執行及書類ノ送達ハ臺灣總督府法院執達規則施行細則ニ準據シ廳屬ヲシテ取扱ハシム

但シ廳長ノ臨時ノ必要ニ依リ他ノ職員ヲシテ之ヲ取扱ハシムル事ヲ得

前項ノ職務ヲ執行スル者ハ廳長ノ對シタル證書ヲ携帶スルコトヲ得

書類ノ送達ハ郵便ニテ之ヲ爲シ又ハ適當ノ送料スル者ヲシテ送達セシムルコトヲ得

第二十條 書類ノ送達及執行ノ費用ハ臺灣總督府法院執達規則ニ準據シ債務者ノ負擔トス

前項ノ費用ハ債權者ノ執行前調停ニ於テ取立ヘシムル額ニ於テ負擔スルコトヲ得

第二十一條 廳長ノ作成シタル公正證書ヲ執行ニ關シテ第六條以下ノ規定ニ依ル

第二十二條 民事訴訟調停ノ執行ニ關シテハ各廳間互ニ共助ヲ爲ス

公正證書ノ執行ニ關シテハ地方法院澎湖廳臺東廳花蓮廳閩五ニ共助ヲ爲ス

附則 本命令本令施行前既ニ受理シタル民事訴訟事件ニシテ未ダ調停成立セザルモノニテ之ノ適用ヲ及

民事訴訟調停及其執行ヲ取扱ハシムル廳長指定

（明治三十七年三月臺灣總督府令第三十三號）

明治三十七年律令第三號第四條ニ基キ同令第一條ニ掲ケタル以外ノ廳長ヲシテ民事訴訟調停及其

ノ執行ヲ取扱ハシムル事ヲ命ジ

本令於明治三十七年五月一日ヨリ之ヲ執行ス

民事訴訟調停費用規則

（明治三十七年三月臺灣總督府令第三十五號）

民事訴訟調停費用規則ハ左ノ如ク定ム

第一條 民事訴訟調停ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ム

一 調停目的物ノ價額 十圓マテ 金二十錢

一圓マテ 金二十錢

一圓以上十圓以下 金五十錢

十圓以上五十圓以下 金三十錢

五十圓以上一圓以下 金二十錢

一圓以上十圓以下 金三十錢

十圓以上五十圓以下 金二十錢

五十圓以上一圓以下 金三十錢

一圓以上十圓以下 金二十錢

第二條 財産權上ノ請求ニテハ其ノ申請ニハ金一圓ノ手数料ヲ納ムヘシ
 第三條 第一條ノ價格ヲ算定スルニハ民事訴訟用印紙規則第三條ノ規定ヲ準用ス
 第四條 調停調書ノ謄本ノ下付ヲ申請スル者ハ一通ニ付金二十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ
 第五條 執行文ノ付與ヲ申請スル者ハ金三十錢ヲ納ムヘシ

民事訴訟費用規則

(明治三十一年七月律令第十號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經テ以テ民事訴訟費用規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

民事訴訟費用規則

第一條 民事訴訟費用ハ此規則ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴訟其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金三錢トス但半枚ニ滿タサルモノ亦同シ

第三條 圖面ハ一葉ニ付金十五錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ法院ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金七十五錢トス但半枚ニ滿タサルモノ亦同シ

第五條 法院ニ於テ訴訟代人ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ法院ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第六條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ金二十五錢トス

第七條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第八條 鑑定人及通事ノ日當ハ出頭一度ニ付金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ法院ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者ノ滞在費ハ滿三里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金五十錢トシ證人鑑定人及通事ノ滞在費ハ一日金一圓トス

第十條 當事者證人鑑定人及通事ノ旅費ハ汽車賃一哩ニ付金七錢、船賃一海里ニ付金七錢、車馬賃一里ニ付金三十錢トス

第十一條 道路兩線以上アルトキハ最近ノ道路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十二條 臺灣總督府管轄區域外ニ在ル當事者ノ旅費ハ法院ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十三條 判官書記及通譯檢證ノ爲實地檢査ヲ爲スニ付テノ旅費及滞在費ハ證人ニ準ス(明治三十一年十一月律令第八號ヲ以テ條中改正)

第十四條 此規則ニ定メサル必要ノ費用ハ他ノ規則ニ定ムルモノヲ除ク外其實費ニ依ル

第十五條 強制執行ニ關スル費用ハ他ノ規則ニ定ムルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

第十六條 強制執行ニ關シ保管人若ハ管理人ヲ任命シタル時其費用ハ法院ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十七條 費用ノ豫納及負擔ニ關スル方法ハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十八條 附則

第十九條 此規則ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行ス

第二十條 關東州ニ於ケル特則

第二十一條

第二十二條

第二十三條

第二十四條

關東州ニ於ケル特則

關東州民事訴訟用印紙規則

（明治四十一年四月關東都督府令第二十三號）

關東州民事訴訟用印紙規則

第一條 民事訴訟ノ書類ニ此ノ規則ニ依ルノ外明治二十三年法律第二十五號民事訴訟用印紙法ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 財產權上ノ請求ニ係ル始審ノ訴訟ニハ訴訟物ノ價格ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

同 一圓以上一圓以下ノ訴訟物ノ價格ノ四十分額

第三條 上訴狀ニハ前條ノ規定ニ從ヒ其ノ額ノ印紙ヲ貼用スルノ外公賣證明書ノ額ノ印紙ヲ貼用ス

第四條 民事訴訟用印紙法（第六條）ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ之ヲ一圓、同法第十條ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ之ヲ四十分額トス

附則

本條ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第三編 家資分散

家資分散法

（明治二十三年八月法律第六十九號）

第一章 總則

命

第一條 民事訴訟法又強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所

ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スヘシ

右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及ヒ市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シテ效力ヲ有ス

華族及華族ノ子弟身代限處分濟宮內省華族局へ通牒方 (明治十八年十一月司法省達丁第二十五號)

民事裁判上ニ於テ華族及華族ノ子弟ヲ「身代限」處分ニ及ボシ影者有之候ハ處分完結ノ上其旨直ニ宮內省華族局へ通牒可致此旨相達候事

裁判所ニ於テ「身代限」又ハ「抵當物公賣處分」ヲ爲ス時及其處分ヲ取消ス時登記所ニ通知セシム

(明治二十年三月司法省訓令第十二號)

裁判所ニ於テ「身代限」又ハ「抵當物公賣」處分ヲ爲ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知スヘシ其處分ヲ取消ス時亦同シ

裁判所ニ於テ「身代限」處分又ハ「抵當物公賣處分」ノ未

落札セシトキ登記所ニ通知方

(明治二十年十月司法省訓令第二十三號)

裁判所ニ於テ「身代限」處分又ハ「抵當物公賣」處分ヲ爲シ及ヒ其處分ヲ取消ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知ス可キ儀ニ付本年三月十四日附テ以テ訓令ニ及ヒタル處右處分ノ未裁判所ニ於テ落札ヲ達シタル時モ亦其旨及落札人ノ氏名ヲ該登記所ニ通知スヘシ

第四編 人事訴訟手續

人事訴訟手續法 (明治三十一年六月法律第十三號)

朕帝國議會ハ協賛ヲ經テ人事訴訟手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス

第一章 婚姻事件及養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ於テ夫有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但縁組事件ハ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

前項ハ普通裁判籍ハ日本ニ住所ヲ有スル者又ハ日本ノ住所ヲ不知シ居所ニ依リ居所ナキ者又ハ居所ノ知レサル者キハ最後ノ住所ニ依リテ定ムル

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所トス

第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

第三者ヲ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦以テ相手方トシテ夫婦在り一方カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

前二項ノ規定ニ依リテ相手方トシテ夫婦在り一方カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス

檢事ハ當事者トシテ夫婦在り一方カ死亡シタル後ハ本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ノ辯護士ヲ承繼人トシテ選定スル

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ノ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 無能力者カ婚姻ヲ無効若クハ取消シ離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人ハ保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

無能力者ハ前項ノ訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人ハ保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

前條第五項ノ規定ハ受託裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 夫婦ノ一方カ禁治產者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

禁治產者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條 婚姻事件ニ付テハ檢事ヲ辯論ニ立會セシメ意見ヲ述フルコトヲ要ス

檢事受命判事又ハ受託判事之審問ニ立會セシメ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ日期ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立テ調書ニ記載スル

第六條 檢事ハ當事者ヲ爲シテ其後見人トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第七條 婚姻ノ無効訴訟其取消ノ訴離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得

第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ヲ變更又ハ併合シ依リテ主張スルコトヲ得

第十條 民事訴訟法第百一十條第三項第三項及第百三十五條乃至第百四十一條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セ

民事訴訟法第百一十條第三項第三項及第百三十五條乃至第百四十一條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セ

裁判上之自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セシメザルニ關シテハ、
 民事訴訟法第二百十條ノ規定ハ婚姻事件ノ控訴審ニ之ヲ適用スルニ關シテハ、
 第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其期日ヲ
 定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出テ受ケタル場合ハ此限ニ在ラズ
 前項ノ場合ヲ除外被告カ期日ニ出頭セサルトキト雖モ辯論ヲ命シ且判決ヲ爲スコトヲ得此場
 合ニ於テハ民事訴訟法第二百四十八條及七百二十九條ノ規定ハ適用セズ
 第三項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用スルニ付テハ、
 第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ
 付キ訊問ヲ爲スコトヲ得
 當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊
 問ヲ爲サシムルコトヲ得
 出頭セサル當事者ニ出頭セサル證人三關スル民事訴訟法ノ規定ハ適用ス
 第十三條 和譜ヲ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限リ一年ヲ超エサル期間離
 婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得
 第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ
 酌ニスルコトヲ得但其實實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スルコトヲ得
 第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘ
 第十六條 扶養若クハ同居ハ義務子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃

至七百六十三條ヲ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス
 第十八條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三審ニ對シテモ其效力
 ヲ有ス

民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ
 其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限リ其效
 力ヲ有ス

第十九條 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ第四條ノ規定ヲ適用ス
 第二十條 檢事カ提起スルコトヲ得ル夫婦ヲ以テ相手方トス
 第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナキトキニ限リ
 之ヲ爲スコトヲ得
 訴ノ事由ノ變更又ハ併合ハ檢事カ提出スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
 第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行シ又ハ上
 訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦以テ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラズ
 第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲スコトキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トナス
 當事者上一人カ上訴ヲ爲ハトキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ以テ相手方トス
 第二十四條 養子縁組ノ無効若クハ取消又ハ離縁ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地
 又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ附帶シテ縁組ノ取
 消又ハ離縁ヲ請求スル場合ハ此限ニ在ラズ

第二十五條 養親力禁治產者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス

養子力禁治產者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 第一條第二項第三項第三條第三條及ハ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス

第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無效若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ

定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十八條 夫力禁治產者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セシメテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シ

起スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ノ規定ハ其後見人ノ同意ヲ得テ提起スルコトヲ得

第三十條 父カ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ母ハ母及配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ハ其前配偶者互ニ其相手方ト爲ル

子又ハ母力提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ

死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トシ其遺言ノ遺出ヲ命ズルコトヲ得

第三十一條 親權者ハ其財產管理權ヲ喪失又ハ其權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通

裁判籍ヲ有スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ現ニ親權者クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以

テ相手方トス

第三十三條 推定家督相續人若クハ推定遺產相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ被

相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺產相續

人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隱居ノ無效又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ

時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隱居者カ提起スル隱居ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス

家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者ヲ以テ相手方トス

隱居者及ヒ家督相續人ニ非ズル者カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人ヲ以テ

相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ

證據調ノ結果ニ付キ當事者ニ訊問スルコトヲ得

第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達スヘシ
 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ
 後見人ト爲スル者ニ之ヲ送達スヘシ
 第五十二條 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人トナルヘキ
 著功其送達受ケタル日ヨリ効力ヲ生ズ
 法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ
 効力ヲ生ズ

第五十三條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ
 第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ヲ申立テ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ
 得ルハ期間ハ受領時ヨリ起算スルモノトシテ其間ハ申立人ハ其抗告ノ爲メニ其費用ヲ負擔スルコトヲ
 要ス

第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス
 第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シテ一ヶ月内ニ訴
 以テ不服ヲ申立ルコトヲ得ル
 前項ノ期間ハ禁治産者ト對シテハ禁治産ヲ宣告シ知リタル日ヨリ起算シ其他ノ物ニ對シテ
 第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所
 第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス

第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス
 第五十九條 第二條第四項第五項第三條第五條第十條第十一條第十七條第四十七條及ヒ第四十八
 條ノ規定ハ第五十五條第二項ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第二十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタルコトヲ
 取消スルコトヲ得ル
 第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行為ハ其效力ヲ變セス
 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者カ爲シタル行為ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ
 取消スルコトヲ得ス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ
 前項ノ判決ハ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ
 第六十三條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ請求ル申立ハ禁治産者カ普通
 裁判權ヲ有スル地ノ區裁判所ヲ管轄ス
 第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ハ禁治産ノ宣告ノ取消ノ場合ニ於テハ
 禁治産者ノ負擔トス
 第六十五條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ハ禁治産ノ宣告ノ取消ノ場合ニ於テハ
 前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用スルハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ハ檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條

第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ルル者ト得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十七條 連禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 連禁治産ノ取消ヲ申立ルル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リテ爲シ

第六十九條 本章ノ規定ニ依テ爲スル公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十

第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 不在者ノ姓名及ヒ其住所ノ所在

二 不在者ノ失踪ノ原因

三 不在者ノ失踪ノ年月日

四 不在者ノ失踪ノ後ノ行方

五 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

六 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

七 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

八 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

九 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十一 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十二 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十三 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十四 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十五 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十六 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十七 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十八 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

第一條第三項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 不在者ノ姓名及ヒ其住所ノ所在

二 不在者ノ失踪ノ原因

三 不在者ノ失踪ノ年月日

四 不在者ノ失踪ノ後ノ行方

五 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

六 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

七 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

八 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

九 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十一 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十二 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十三 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

十四 不在者ノ失踪ノ後ノ行方ノ調査ノ結果

得十五條 失蹤ノ宣告ハ、前項ノ訴ニ依リテ、失踪ノ宣告ハ、申立人ノ死亡シタル後ハ、檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ、
 前項ノ訴ニ依リテ、失踪ノ宣告ハ、申立人ノ死亡シタル後ハ、檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ、
 第三條第四項及第五項ノ規定ヲ準用ス
 第七十九條 數個人不服申立ノ訴アルトキハ、裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法
 第五十條ノ規定ヲ適用ス
 第八十條 民法第三十二條ニ依リテ失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請
 求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條
 ノ規定ヲ適用セズ
 附則

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ施行ス

第八十二條 明治二十三年法律第四百號其他従前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スル
 モノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴ニシテ其判決確定セザルモノハ本法ノ規定ヲ適用ス
 【參照】 明治二十三年十月九日官報法律第四百號ハ婚姻事件養子縁組事件及七禁治產事件
 ニ關スル訴訟規則大體ハ舊民事訴訟法ノ規定ニ準ジテ之ヲ適用ス

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於ケル住所ノ公告

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住所トス

同上 (明治三十一年八月臺灣總督府法令第七十二號)

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ臺北縣臺北ヲ以テ住所トス

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告

方法 (明治三十一年七月司法省令第九號)

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ
 付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在
 地ノ區裁判所力選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ
 前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

同上 (明治三十一年八月臺灣總督府令第七十三號)

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選定
 シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ但上級法院ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ地方
 院力選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ
 前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ法院ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

第十三章 加減例

第二編 罪

第二章 皇室ニ對スル罪

第三章 内亂ニ關スル罪

第四章 外患ニ關スル罪

第五章 國交ニ關スル罪

第六章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第七章 逃走ノ罪

第八章 犯人藏匿及ヒ證據湮滅ノ罪

第九章 竊取ノ罪

第十章 放火及ヒ失火ノ罪

第十一章 盜水及ヒ水利ニ關スル罪

第十二章 往來ヲ妨害スル罪

第十三章 住居ヲ侵スル罪

第十四章 秘密ヲ侵スル罪

第十五章 阿片煙ニ關スル罪

第十六章 飲料水ニ關スル罪

第十七章 通貨偽造ノ罪

第十八章 文書偽造ノ罪

第十九章 有價證券偽造ノ罪

第二十章 印章偽造ノ罪

第二十一章 偽證ノ罪

第二十二章 誣告ノ罪

第二十三章 猥褻、淫及ヒ重婚ノ罪

第二十四章 賭博及ヒ官職ニ關スル罪

第二十五章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第二十六章 瀆職ノ罪

第二十七章 殺人ノ罪

第二十八章 傷害ノ罪

第二十九章 過失傷害ノ罪

第三十章 墮胎ノ罪

第三十一章 遺棄ノ罪

第三十二章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第三十三章 脅迫ノ罪

第三十四章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第三十五章 名譽ニ對スル罪

第三十六章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第三十七章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第三十八章 有價證券偽造ノ罪

第三十九章 印章偽造ノ罪

第四十章 偽證ノ罪

第四十一章 誣告ノ罪

第四十二章 猥褻、淫及ヒ重婚ノ罪

第四十三章 賭博及ヒ官職ニ關スル罪

第四十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第四十五章 瀆職ノ罪

第四十六章 殺人ノ罪

第四十七章 傷害ノ罪

第四十八章 過失傷害ノ罪

第四十九章 墮胎ノ罪

第五十章 遺棄ノ罪

第五十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第五十二章 脅迫ノ罪

第五十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第五十四章 名譽ニ對スル罪

第五十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第五十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

同並施行細則.....六二〇二
 匪徒刑罰令.....六二〇三
 第四章 臺灣ニ於ケル特別
 第五章 韓國ニ於ケル特別
 同.....六二一
 刑ノ執行猶豫ニ關スル件.....六二二

同.....六二二
 同.....六二二
 陸軍刑法.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正
 同.....六一〇正

第十章 俘虜ニ關スル罪.....七七
 第十一章 違令ノ罪.....七八
 附則.....七九

陸軍刑法施行法.....七九
 陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件.....八五
 軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル軍人軍屬等ニシテ其身分ヲ失ヒタル者ニ關スル取扱手續.....八五

陸軍刑法、同施行法、海軍刑法及同施行法ヲ臺灣ニ施行スルノ件.....八六
 陸軍刑法、同施行法、海軍刑法及同施行法ヲ樺太ニ施行スルノ件.....八六

第三編 海軍刑法

海軍刑法.....八五

第二編 總則.....八五
 第一章 叛亂ノ罪.....八七

第二章 擅權ノ罪.....八九

第三章 辱職ノ罪.....九〇
 第四章 抗命ノ罪.....九三

第五章 暴行ノ罪……………九三

第六章 侮辱ノ罪……………九六

第七章 逃亡ノ罪……………九六

第八章 軍用物損壞ノ罪……………九七

第九章 掠奪ノ罪……………九八

第十章 俘虜ニ關スル罪……………九八

第十一章 違令ノ罪……………九九

附則……………一〇〇

海軍刑法施行法……………一〇一

海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件……………一〇一

海軍刑法ヲ適用セサル海軍所屬學生生徒ニ關スル件……………一〇六

海軍軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ關スル取扱手續……………一一七

軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其身分ヲ失ヒタル場合ニ關スル取扱手續……………一〇八

第一編 刑法

第一章 刑法及同施行法

刑法 (明治四十年四月法律第四十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法別冊ノ通之ヲ定ム
此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十一年六月勅令第六十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ本法ヲ施行スルコトト定ム)

明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス (別冊)

刑一法

第一編 總則

第一章 法 第一條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第三條 第七條乃至第七十九條ノ罪

- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百五十四條、第五百五十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪
- 六 第六十二條及ヒ第六十三條ノ罪
- 七 第六十四條乃至第六十六條ノ罪及ヒ第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項ノ未遂罪
- 六十六條第二項ノ未遂罪
- 第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス
- 一 第八條、第九條第一項ノ罪、第八條、第九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
- 二 第九十九條ノ罪
- 三 第九十九條乃至第一百六十一條ノ罪
- 四 第六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
- 五 第七十六條乃至第七十九條、第八十一條及ヒ第八十四條ノ罪
- 六 第九十九條、第一百條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
- 八 第二百四條乃至第二百六條ノ罪
- 九 第二百八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 十 第二百十條及ヒ第二十一條ノ罪
- 十一 第二百二十四條乃至第二十八條ノ罪

- 十二 第二百三十條ノ罪
- 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第三百四十三條ノ罪
- 十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
- 十五 第二百五十三條ノ罪
- 十六 第二百五十六條第二項ノ罪
- 帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ
- 第四條 本令ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス
- 一 第一條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 二 第五十六條ノ罪
- 三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
- 第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス
- 第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ
- 公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニモ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ハ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期ニシテ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘留ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ輕減スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一 犯罪行為ヲ組成シタル物

二 犯罪行為ニ供ジ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行為ヨリ生ジ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限ル

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得

ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス
第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス
第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス
拘禁セラレタル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ
放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判
確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得
一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨ
リ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ
一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル
ルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ
言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一
無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得
第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得
一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ
四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス
第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許ス
コトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時 效

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得
第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス
一 死刑ハ三十年
一 無期ノ懲役又ハ禁錮二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ、十年、三年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條 時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三十四條 時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セズ

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セズ

防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ其行為ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セズ但其程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ義務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セズ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行為ハ之ヲ罰セズ但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セズ

心神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 精神者ノ行為ハ之ヲ罰セズ又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行為ハ之ヲ罰セズ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止々其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中、其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付

キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ

合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

心神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 精神者ノ行為ハ之ヲ罰セズ又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行為ハ之ヲ罰セズ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止々其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中、其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付

キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ

合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス
 二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス
 第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得
 二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス
 第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪
 ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行
 ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科
 料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタ
 ル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノトシテ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ
 受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス
 二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ
 罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ處斷ス

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪
 ナ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ
 因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ
 犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ
 非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定
 ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ
 適用セス

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス
 教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス
 從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セズ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
 - 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
 - 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
 - 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス
 - 五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス
 - 六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス
- 第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ二日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

第二編 罪

第二章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行為アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行為アリタル者亦同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行為アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第七十七條 皇族ニ對シ不敬ノ行為アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條 皇族ニ對シ不敬ノ行為アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シ其他軍ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰端ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ヲ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効トラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易トラスル可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章 騷擾ノ罪

第一百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指導シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三、附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受ケルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セザルコトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セザル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セサルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十一條 前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第十二條 前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十五條 第一百九條第一項及ヒ第一百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第十六條 火ヲ失シテ第一百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第一百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第一百九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第十八條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第一百八條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第一百九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第十九條 前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

第二十條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章 溢水及水利ニ關スル罪

第百十九條 溢水セシメ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鐵坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押テ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル

第百二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪
第百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百二十五條 鐵道又ハ標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシム可キ行爲ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ船舶ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル船舶ヲ覆没又ハ破壞シタルモノ亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第百二十七條 第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ船舶ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百二十八條 第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ船舶ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ覆没若クハ破壞又ハ船舶ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上十年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵ス罪
第百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建築物若クハ船舶ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ
第百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニアリシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪
第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪
第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪
第四百十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入

シタル者亦同シ

第四百十九條、行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百十條、行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十一條、前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百十二條、貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四百十三條、貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造罪

第四百十四條、行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ證書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ證書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者亦同シ

第四百十五條、行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十六條、公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第四百十七條、公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以上ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルモノハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百十八條、前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百十九條、行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利ノ職務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項以外權利ノ職務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 有價證券偽造ノ罪
第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ
第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ
第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ
第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ
第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪
第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十二章 誣告ノ罪

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ
第六十九條ノ例ニ同シ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルト
キハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪
第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若シクハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五
百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上
七年以下ノ懲役ニ處ス

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三年以上
十年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神喪失セシメ若クハ抗拒不
能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第七十九條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ
三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ
三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ
懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ
前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス此相婚シタル者
亦同シ

第二十三章 賭博及ヒ當籤ニ關スル罪
第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科
料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル者ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第八十六條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第八十七條 當籤ヲ發賣シタル者ハ一年以上ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
當籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外當籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第八十八條 神祠、佛堂、墓所其他拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若ク
ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第九十條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十一條 第八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 濫職ノ罪

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重ニ從テ處斷ス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ノ過半ヲ沒收ス

額刑罰則

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯シ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條 人ヲ殺シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百三條 第九十九條ハ第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以上ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ死シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百七條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百八條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百九條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十一條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十二條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十四條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十六條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十七條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百二十條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前二條ノ罪ヲ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

ノ傷害を生シタル者ヲ知ル能ハサルトキハ共同ニ非スハ雖モ共犯ノ例ニ依ルニ依リテ
 第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者ハ人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下
 ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處スルニ至ラサルトキハ六月以下ノ懲役若クハ三十圓以下
 ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處スルニ至ラサルトキハ六月以下ノ懲役若クハ三十圓以下
 前項ノ罪ヲ告訴シ得テ之ヲ論ズルニ至ラサルトキハ六月以下ノ懲役若クハ三十圓以下
 第二百九條 過失ニ因リテ人ヲ死傷シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルニ至ラサルトキハ六月以下ノ懲役若クハ三十圓以下
 前項ノ罪ヲ告訴シ得テ之ヲ論ズルニ至ラサルトキハ六月以下ノ懲役若クハ三十圓以下

第二百十條 過失ニ因リテ人ヲ死シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リテ人ヲ死傷シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓
 以下ノ罰金ニ處スルニ至ラサルトキハ六月以下ノ懲役若クハ三十圓以下
 第二百十二條 懷胎ノ婦女ヲ藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ
 處スルニ至ラサルトキハ六月以下ノ懲役若クハ三十圓以下

第二百十三條 婦女ヲ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因
 テ婦女ヲ死傷シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル
 前項ノ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲
 役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下
 ノ懲役ニ處ス
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルニ至ラサルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シテ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルニ至ラサルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十章 遺棄ノ罪
 第二百十七條 老幼、病者、不具者、疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ
 處ス

第二百十八條 老幼、病者、不具者、疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ
 處ス
 前項ノ保護ヲ爲シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルニ至ラサルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 自己又ハ配偶者、直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルニ至ラサルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル
 者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同

第三百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴
行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ
處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シ人ヲシテ義務
ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百二十四條 略取及ヒ誘拐ノ罪
第三百二十五條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
第三百二十六條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上十年以
下ノ懲役ニ處ス

第三百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役
ニ處ス
帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送スル者亦同

第三百二十七條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若ク
ハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處
ス

第三百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三百二十九條 同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル者ハ第二百二十七條
第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待
テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ハ無効又ハ取消ノ裁判確定
ノ後ニ非サレハ告訴ノ效力ナシ

第三十四章 名譽ニ對スル罪
第三百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其實質ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲
役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス
第三百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第三百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪
第三百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタ
ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ
第三百三十六條 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第三百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 強盜及強盜未遂者、強盜入罪、爲五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲ暴行シテ之ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲スル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取返ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免ル若シテ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス致死シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナル者ハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條 第三百三十五條、第三百三十六條、第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條 直系血族ノ配偶者及同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ノ力ヲ財物ト看做ス

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條 他人ハ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加ヘテ目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命ゼラルル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

又六百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ヲ運搬寄藏故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ之等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條 他人ノ建物又ハ船舶ヲ損壞シタル物ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞シ又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ前三條ニ依リ

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

刑法施行法 (明治四十二年三月法律第二十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ

刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ其他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ

主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑 舊刑法ノ刑

死刑 死刑

無期徒刑 無期徒刑

無期懲役 無期徒刑

無期禁錮 無期徒刑

有期懲役 有期懲役、重懲役、輕懲役、重禁錮

有期禁錮 有期懲役、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

罰金 罰金

拘留 拘留

科料 科料

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シ

數罪ヲ犯タル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一ノ刑ヲ科ス可キトキハ其
 中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ
 併科ス可キトキ亦同シ

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法
 ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監
 視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ
 犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名
 ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト
 雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行
 後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關
 スル規定ヲ適用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處
 刑シタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ適用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル二罪下刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪ニ付キ同時ニ裁判ヲ
 爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ニ付キ刑法施
 行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪ニ付キ同時ニ裁判ヲ
 爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規
 定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ
 適用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ
 其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁
 判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ確定裁判アリタル罪
 ニ關スル規定ヲ適用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル
 餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルト
 キト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯

三關スル規定ヲ適用ス第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者雖モ刑ノ執行ハ假出獄及ヒ時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢察事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第三條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十四條 刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算ス刑法

第十八條ノ期間ヲ超スルコトヲ得ス

第十六條 懲治場留置ヲ執行シ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 關席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メタル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ揭ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス爆發物取締罰則第十條ノ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第二編第三章第五節

二 (印紙犯罪處罰法ニ依リ削除セラル)

三 第二編第四章第七節及ヒ第九節

四 第二編第五章第三節

五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準局ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一 軍機保護法ニ掲ケタル罪

二 徵兵令ニ掲ケタル罪

三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪

四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪

五 船舶法ニ掲ケタル罪

六 船員法ニ掲ケタル罪

七 船舶職員法ニ掲ケタル罪

八 船舶検査法ニ掲ケタル罪

九 戶籍法ニ掲ケタル罪

十 郵便法ニ掲ケタル罪

十一 (同上法令ニ依リ削除)

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 著作權法ニ掲ケタル罪

二 公權ヲ剝奪セラルモテ下看做ス

二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪

三 移民保護法ニ掲ケタル罪

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ罪名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルコトナシ

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ刑法ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ト下看做ス

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラルモテ下看做ス

前項ノ規定ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セズ

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザルシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

五 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ一年

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢察官ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第二百五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第二百六條第一項中「刑法第八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第三十八條中「刑法第七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ

第三項ヲ削ル
被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第七十二條 檢察官免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スコシ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊愈ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役ノ禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三 分娩後七月以上ナルトキ

四 分娩後一月ヲ經過セザルトキ

第五十條 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲スコシ」ヲ下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第三百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十二條 刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第六十八條、第七十三條及ヒ第七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條 刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ此決定ニ對テ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀
 事シテ此場合ハ此限ニ非ズ其裁判所ニ對シテ其言渡ハ其裁判所ニ對シテ其言渡ハ其裁判所ニ對シテ
 上訴裁判所ニ對シテ其言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取得可至場合於テハ刑及言渡ヲ受分受分者ノ所在地又ハ
 最後ノ住所地方裁判所地方裁判所ノ檢察官其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ
 前項ノ請求ハ其言渡ヲ受分受分者ノ所在地又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定
 對シテ其抗告ヲ爲ス可トナリ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ進用ス
 第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ヲ執行猶豫ノ言渡ヲ受分仍舊猶豫ノ期間ヲ經過
 セル者刑ヲ依リ刑ヲ執行猶豫ノ言渡ヲ受分受分者ノ罪看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス
 第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スル附帶スル民事訴訟ノ方式ニ依ラズ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス
 下判得テ對テ一日ノ猶豫ヲ爲ス可

第六十一條 刑ヲ執行猶豫ノ言渡ヲ受分受分者ノ請求ナシト雖トモ之レヲ還付スル言渡ヲ爲ス可
 シニ 刑ヲ執行猶豫ノ言渡ヲ受分受分者ノ請求ナシト雖トモ之レヲ還付スル言渡ヲ爲ス可
 第六十二條 左ノ記載タルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審ノ公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ止宿料
 二 第六十六條ニ記載タル費用
 第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當及左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之

鑑定

第一 證人ノ日當及出頭一度ニ付金三十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當
 第二 鑑定人及通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五十圓

第六十四條 證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ海陸路當里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於
 テ豫審判事ノ受託判事及裁判所之決定但通路兩線以上ノ距離最近ノ通路者以テ旅費ヲ
 算定スルノ旨ニ命ズルモノナリ其算定ノ時ニ於テ其算定ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判
 判前項ニ掲ケタル者以外止宿料ヲ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判
 事又ハ裁判所之決定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルモノニ非ズルモノ之ヲ給與スル

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於
 テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セズ

第六十六條 鑑定ノ通譯ニ付テ多數ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別
 三相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 豫審費用及訴訟費用共犯人ノ連帶負擔トス
 本法ハ附則則一ノ目ヨリ施行ス

刑法附則其他刑罰法施行規則爲メ公布シテ法令之ヲ廢止スル命令ニ依リ
 刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル事件

朕刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕 明治三十九年勅令第百五十五號ハ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ北海道及沖繩縣ニ於
テハ之ヲ區ノ公民權及區會議員選舉權ニ關スル件ナリ

刑法施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件

朕刑法施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ掲ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規定アル
場合ヲ除キ不外左ノ例ニ從ヒ對照スル舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑名ニ包含ス
死刑 懲役、無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮、
禁錮、無期徒刑、有期徒刑、重禁錮、輕禁錮、輕禁錮、
罰金、罰金

舊刑法中仍ホ效力ヲ有スル條項

〔舊刑法中、下記條項ハ刑法施行法第二十五條第二項ノ規定ニ依リ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス〕

第二章 舊刑法

第五節 私三軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪
第五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂實ノ物品
ヲ製造シタル者ハ三月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之
ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ
附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ
第五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑

三照シ二等ヲ減ス
 第五百二十九條 前條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第六十條 第五百七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七節 度量衡法偽造スル罪
 第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ
 十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各
 本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス
 第二百二十九條 商賈農工規定ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル時ハ一月以上三月以下ノ重禁錮
 ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財内以テ論ス
 第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照
 シ各一等ヲ減ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
 第三百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處
 シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年
 以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百三十五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ハ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以
 上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年
 以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三章 傳染病豫防規則ニ關スル罪
 第三百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸
 地ニ運搬シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ヲ犯添附シテ知者制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等
 ヲ附加ス

第三百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ施行地方ヨリ他所ニ出タル者ハ十五日以上
 六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他所ニ出シタル者ハ十一月以
 上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪
 第二章 財產ニ對スル罪

第四節 家資分取ニ關スル罪
 第三百八十八條 家資分取ノ際其財產隱匿漏洩又ハ虛僞ノ負債ヲ增加シタル者ハ二月以上四
 年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
 第三百八十九條 家資分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人
 ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三章 罰則

警察犯處罰令

(明治四十一年九月內務省令第十六號)

警察犯處罰令左ノ通り之ヲ定ム

警察犯處罰令

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘留ニ處ス

一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潜伏シタル者

二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四 故チカ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日以下ノ拘留又ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

一 合力ヲ喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二 乞巧ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金

品ヲ強請シタル者

五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虚偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者

七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八 申込ヲキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ヲキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九 祭事、祝儀又ハ其ノ他ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

前項ノ死屍、死胎ニ對シ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者

十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者

十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ヲ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者

十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者

十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者

十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虚報ヲ爲シタル者

十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符咒等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

- 十八 病者ニ對シ禁厭祈禱符咒等ヲ爲ス及神符神水等ヲ與シ醫藥ヲ妨ケタル者ハ...
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シテ他人ノ身體ニ害ヲ及ボス者ハ...
- 二十 官職ノ位記勳章學位ヲ濫用シ又ハ法令ノ定ムル服飾徽章ヲ借用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シテ他人ノ信用ヲ損傷スル者ハ...
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者...
- 二十二 他人ノ飲用ニ供スル水ヲ汚穢シ又ハ他人ノ飲用ニ供スル水ヲ汚穢シ又ハ他人ノ飲用ニ供スル水ヲ汚穢シ...
- 二十三 河川溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨ケヘキ行爲ヲ爲シタル者...
- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺入シタル者...
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ出入シタル者...
- 二十六 官公署ノ標識ヲ撤去シタル者...
- 二十七 水災災其ノ他ノ事變ニ際シ避難ヲ命ぜられたる者ハ其ノ現場ニ立入リ若シテ其ノ場所ヲ退去セズ又ハ官吏ヨリ援助ヲ求メ受ケズシテ避難ヲ命ぜられたる者ハ...
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺道路公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者...
- 二十九 他人ノ田野園圃ニ於テ果樹採摘シ又ハ花卉採摘シタル者...
- 三十 濫ニ他人ノ勞務者ニ對シ其ノ職務ヲ妨ケタル者...
- 三十一 濫ニ他人ノ身體ニ立寄リ又ハ追隨シタル者...
- 三十二 他人ノ身體ノ物體又ハ之ニ害及スルモノヲキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者...
- 三十三 神祠佛堂禮拜所墓所碑表形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者...

- 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隠匿シ又ハ他物ニ紛ハシテ擬裝シタル者...
- 三十五 一定ノ飲食物ヲ他物ヲ混雜シ不正ノ利ヲ圖ル者...
- 三十六 不熟ノ果物腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者...
- 三十七 濫ニ他人ノ馬牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者...
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス...
- 一 公衆ノ目出觸ルヘキ場所ニ於テ裸體シ又ハ臀部股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者...
- 二 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇毒ノ他物ヲ玩ヒタル者...
- 三 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者...
- 四 石灰其ノ他自然發火ノ虞ヲ有スル物ヲ取扱フ忽ニシタル者...
- 五 開業醫師、產婆故ナク病者又ハ妊婦、產婦ノ招キニ應ゼサル者...
- 六 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設クス店頭ニ陳列シタル者...
- 七 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之ヲ取除ク義務ヲ怠ル者...
- 八 監獄ニ係ル精神病者ヲ監護スル意ヲ屋外ニ徘徊セシメタル者...
- 九 濫ニ天其ノ他ノ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシメタル者...
- 十 狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者...
- 十一 公衆ノ目ニ觸ルベキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者...

十五 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚漬シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣食
 家札其ノ他標標ノ類ヲ汚漬シ若ハ撤去シタル者
 十六 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 十七 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入ルル者
 第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀
 ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
 附則 明治四十一年十月一日ヨリ施行ス

爆發物取締罰則

(明治十七年十二月布告第三十二號)

爆發物取締罰則別冊ノ通制定スルニ依リ
 第一條 治安ヲ妨ク又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人
 ナシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス
 第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セシメタルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ
 處ス
 第三條 第二條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲
 シタル者ハ重懲役ニ處ス
 第四條 第一條ノ罪ヲ犯サンコトヲ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス
 第五條 第六條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸

入販賣讓與寄贈シ吸ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
 第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金
 第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラン
 トスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正
 犯ノ刑ニ等又ハ二等ヲ減ス
 第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ハ刑法第八十條及ヒ第八十二條ノ例ヲ用ヒス但十
 六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ
 第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備隠謀ヲ爲シタル者ハ雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ
 行館ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ
 記載シタル犯罪者モ亦同シ
 第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

決闘罪ニ關スル件

(明治二十二年十二月法律第三十四號)

朕決闘罪ニ關スル事件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決闘ヲ挑ム者又決闘ニ應ジタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添入等何等ノ名義ヲ以テテシテ拘ハラス一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシタル者ハ罰前條ニ同シ

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

議會及議員ノ保護ニ關スル罰則 (明治二十二年十一月法律第二十八號)

朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ヲ告訴テ待テ其罪ヲ論ス則以テ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務行及ニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議會ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

瀆職法 (明治三十四年四月法律第三十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ瀆職法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法令ニ依リ選舉又ハ任用シタル議員、會員、委員又ハ總代其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許若ハ要求シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者亦同シ

第三條 前條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其ノ假ヲ追徵ス

印紙犯罪處罰法 (明治四十二年四月法律第三十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ印紙犯罪處罰法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ偽造又ハ變

違シテ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ
 第六條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰ス以テ印紙ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ
 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ證券ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
 第五條 偽造、變造ノ印紙、金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

附別

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

同上法令ニ依ル官沒取扱方ノ件

(明治四十二年四月外務省令第二號)

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依リ官沒ハ帝國領事官ガ裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル地域ニ於テハ帝國領事官ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

同上

(明治四十二年四月内務省令第十三號)

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ハ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

同上

(明治四十二年四月大藏省令第二十八號)

前項警察署長若ハ警察分署長ノ職務ハ樺太ニ在テハ樺太廳支廳長若ハ支廳出張所長之ヲ行フ

同上

(明治四十二年五月律令第二號)

印紙犯罪處罰ニ關スル件明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

印紙ニ關スル犯罪ノ處罰ハ印紙犯罪處罰法ニ依ル但シ同法第五條中印紙ノ官沒ニ關スル手續ハ臺灣總督之ヲ定ム

同上

(明治四十二年五月統監府令第十一號)

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依リ官沒ハ理事官ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

同上

(明治四十二年四月關東都督府令第八號)

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官没ハ民政署長又ハ民政支署長ヨリ命令書ヲ交付ノ之ヲ爲ス

本令ハ明治四十二年五月十二日ヨリ之ヲ施行ス

第四章 臺灣ニ於ケル特則

罰金及答刑處分例

(明治三十七年一月十二日律令第一號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル罰金答刑處分例勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

第一條 主刑三月以下ノ重禁錮ノ刑ニ處スヘキ本島人及清國人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ罰金又ハ答刑ニ處スルコトヲ得

第二條 主刑又ハ附加刑ノ罰金百圓以下ノ刑ニ處スヘキ本島人及清國人ノ犯罪ニ付テハ被告人左ノ一ニ依リ該刑トキハ其ノ情狀ニ依リ答刑ニ處スルコトヲ得

第三條 拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ本島人及清國人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ答刑ニ處スルコトヲ得

第四條 主刑又ハ附加刑ノ罰金百圓以下又ハ科料ニ處セラレタル本島人及清國人ニ付テ之ヲ完納セサル者ハ其ノ情狀ニ依リ答刑ニ換フルコトヲ得但シ答刑執行中未タ執行セサル答數ニ相當スル罰金又ハ科料ヲ納メタルトキハ答刑ヲ免ス

第五條 本令ニ依リ罰金若ハ答刑ニ處シ又ハ罰金若ハ科料ヲ答刑ニ換フル場合ニ於テハ一日ナリ圓ニ一日若ハ一圓ヲ答刑ニ折算ス其ノ一圓ニ滿タサルモト雖猶答刑ニ計算ス但シ答刑ハ五日以下ルコトヲ得ス

第六條 答刑ハ警二鞭ニ限ス

第七條 答刑ハ滿十六歳以上滿六十歳以下ノ男子ニアラサレハ之ヲ科スルコトヲ得ス

第八條 答刑ハ答二十五以下ニ在リテハ之ヲ一回執行シ其ノ以旺ニ在リテハ答數二十五ヲ増ス

第九條 答刑ノ言渡確定シタル者ハ其ノ執行ヲ終ルマテ之ヲ監獄又ハ即決官署ニ拘留ス

第十條 答刑ノ言渡確定シタルトキハ速ニ之ヲ執行スヘシ但シ答刑ニ處セラレタル者身體ノ健康之ヲ受クルニ堪ヘ難キモト認ムルトキハ答刑ノ執行ヲ免ス

第十一條 答刑ノ執行ハ監獄ニ於テ秘密ニ之ヲ行フ但シ即決官署ニ於テ言渡シタル答刑ハ其ノ官署ニ於テ執行ス

第十二條 本令ニ規定スルモ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

本令ノ執行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（明治三十五年三月臺灣總督府令第三十七號ヲ以テ此施行期日ヲ明治三十七年五月一日ト指定シタリ）

罰金及笞刑處分例施行細則

（明治三十七年三月臺灣總督府令第三十八號）

- 明治三十七年律令第一號罰金笞刑處分例施行細則左ノ通相定ム
- 罰金及笞刑處分令施行細則
- 第一條 笞刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人本島内ニ一定ノ住居ヲ有セス又ハ逃走ノ虞アルトキハ拘留狀ヲ發シテ監獄又ハ即決官署ニ拘留スルコトヲ得
 - 第二條 笞刑ヲ執行セントスルトキハ醫師ヲシテ毎回受刑者ノ身體ヲ診査セシメ其ノ健康笞刑ヲ受ツルニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ執行ヲ猶豫スベシ但シ醫師ヲシテ診査セシムルコト能ハサルトキハ立會官吏ノ認定ニ依リ直ニ執行シ又ハ其ノ猶豫ヲ爲スコトヲ得
 - 第三條 執行猶豫ノ爲メ受刑者ヲ拘留セサルトキハ其ノ住居ノ場所ヲ定メ指定ノ期日ニ出頭スヘキコトヲ醫ハシメ相當ノ保證人ヲ立テシムヘシ
 - 第四條 笞刑執行中受刑者ノ身體健康ニ著シキ危害アリト認ムルトキハ之ヲ停止シ必要ノ場合ニハ第二條ノ手續ヲ爲スベシ
 - 第五條 笞刑ヲ免シ若ハ笞刑ノ執行ヲ免スル處分ハ檢察官之ヲ行フ但シ即決官署ニ於テハ廳長又ハ其ノ代理官之ヲ行フ
 - 第六條 笞刑ハ典獄若ハ監獄監吏立會ト受刑者ニ笞刑ヲ執行スヘキコト並其ノ笞數ヲ告知シタル

後看守又ハ押丁ヲシテ之ヲ執行モシム但シ即決官署ニ於テハ警部若ハ警部補立會ト巡查又ハ巡査捕ヲシテ之ヲ執行セシメ

第七條 笞刑ハ大祭祝日、一月一日、二月三日、十二月三十日並日出前日没後ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス（明治四十二年臺灣總督府令第五十二號ヲ以テ條中改正）

第八條 笞刑執行中ハ執行ニ關スル者ノ外場内ニ入ルコトヲ得ス但シ立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 笞刑ノ執行ヲ受ケヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ一人宛執行シ其ノ間他ノ受刑者ヲ執行ノ場所ニ入ラシムヘカラス

第十條 笞刑執行二回以上ニ亘ルル者ハ連日ニ之ヲ執行スベシ但シ便宜隔日ニ之ヲ執行スルコトヲ得

第十一條 笞刑ノ執行アリタルトキハ立會官吏其ノ始末書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ

第十二條 笞刑執行ノ用ニ供スル笞長サ一尺八寸厚サ二分五厘濶サ笞頭七分柄四分五厘ニシテ竹片ヲ以テ之ヲ作リ疎篩ヲ削除シ麻糸以テ之ヲ纏ミ之ヲ裏ミ笞頭ハ斷餘ヲ片頭ニ一寸二分剩シ笞柄ハ六分剩シ麻糸ヲ以テ密ニ其ノ外部ヲ纏ミ一纏毎ニ背部ニ交結シテ以テ一條稜ヲ成シ長サ五寸布片ヲ交テ其ノ笞柄ヲ包ミ外徑ハ笞頭三寸三分柄一寸五分トス

匪徒刑罰令

（明治三十一年十一月律令第二十四號）

臺灣總督ハ茲ニ緊急ノ必要アリト認メ明治二十九年法律第六十三號第三條ニ依リ匪徒刑罰令ヲ發

若シ犯人其ノ裁判所ノ管轄地外ニ住スル者アルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事ニモ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第四條 區裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及所轄警察官署ニ前條第一項ニ定ムル事項ヲ通知スヘシ

若シ犯人區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄地外ニ住スル者ナルトキハ管轄地方裁判所ノ檢事ニモ前項ノ通知ヲ爲スヘシ

第五條 高等法院又ハ控訴院ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル場合ニ於テハ檢事ハ犯人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、第三條第一項ニ定ムル事項ヲ通知シ其ノ通知ヲ受ケタル檢事ハ之ヲ管轄警察官署ニ通知スヘシ高等法院ニ於テ上告ヲ棄却シタル場合亦同シ

第六條 地方裁判所ノ檢事警察官署ヨリ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人其ノ住所ヲ轉シタルコトノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ第三條第一項ニ定ムル事項ヲ所轄警察官署ニ通知シ且刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事ニ住所ヲ轉シタルコトヲ通知スヘシ若シ轉住地其ノ裁判所ノ管轄地外ナルトキハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス轉住地内地ナルトキ亦同シ

第七條 檢事局ニハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル犯人ノ名簿ヲ備フヘシ

前項ノ名簿ハ其ノ裁判所ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人ノ管內區裁判所ノ檢事ノ通知ニ依ルモノ及其他ノ裁判所ノ檢事ノ通知ニ係ルモノニ付各別ニ之ヲ調製スヘシ

第一項ノ名簿ニハ執行猶豫表及執行猶豫事故表ニ掲記スヘキ一切ノ事項ヲ記載スヘシ

第八條 檢事刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人ニ付言渡取消ノ原因ヲ覺知シタルトキハ犯人所在地又

ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタル場合ニ於テハ檢事ハ所轄警察官署、刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事及最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ犯人ノ氏名及取消ノ原因ヲ通知スヘシ

第十條 檢事刑ノ執行猶豫事故表ニ掲タル猶豫取消以外ノ事故發生シタルコトヲ覺知シタルトキハ刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事及最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條 前三條ノ規定ハ最後ノ住所地内地ナル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事局ハ刑ノ執行猶豫ノ裁判確定シタルモノニ付三月毎ニ左表ヲ製シ其ノ翌月末日迄ニ統監府司法廳ニ提出スヘシ

(表ハ之ヲ略ス)

第二編 陸軍刑法

陸軍刑法

(明治四十一年四月法律第四十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍刑法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍刑法

第一編 總 則

第一章 刑ノ種類

第一條 刑ノ種類ハ左ノ如クシ

一 死刑

二 懲役

三 禁錮

四 罰金

五 沒收

六 追放

七 褫奪公權

八 拘留

九 罰鍰

十 罰則

十一 假釋

十二 赦免

十三 減刑

十四 執行

十五 追及

十六 追徴

十七 追徴金

十八 追徴金

十九 追徴金

二十 追徴金

二十一 追徴金

二十二 追徴金

二十三 追徴金

二十四 追徴金

二十五 追徴金

二十六 追徴金

二十七 追徴金

二十八 追徴金

二十九 追徴金

三十 追徴金

三十一 追徴金

三十二 追徴金

三十三 追徴金

三十四 追徴金

三十五 追徴金

三十六 追徴金

三十七 追徴金

三十八 追徴金

三十九 追徴金

四十 追徴金

四十一 追徴金

四十二 追徴金

四十三 追徴金

四十四 追徴金

四十五 追徴金

四十六 追徴金

四十七 追徴金

四十八 追徴金

四十九 追徴金

五十 追徴金

五十一 追徴金

五十二 追徴金

五十三 追徴金

五十四 追徴金

五十五 追徴金

五十六 追徴金

五十七 追徴金

五十八 追徴金

五十九 追徴金

六十 追徴金

六十一 追徴金

六十二 追徴金

六十三 追徴金

六十四 追徴金

六十五 追徴金

六十六 追徴金

六十七 追徴金

六十八 追徴金

六十九 追徴金

七十 追徴金

七十一 追徴金

七十二 追徴金

七十三 追徴金

七十四 追徴金

七十五 追徴金

七十六 追徴金

七十七 追徴金

七十八 追徴金

七十九 追徴金

八十 追徴金

八十一 追徴金

八十二 追徴金

八十三 追徴金

八十四 追徴金

八十五 追徴金

八十六 追徴金

八十七 追徴金

八十八 追徴金

八十九 追徴金

九十 追徴金

九十一 追徴金

九十二 追徴金

九十三 追徴金

九十四 追徴金

九十五 追徴金

九十六 追徴金

九十七 追徴金

九十八 追徴金

九十九 追徴金

一百 追徴金

一百零一 追徴金

一百零二 追徴金

一百零三 追徴金

一百零四 追徴金

一百零五 追徴金

一百零六 追徴金

一百零七 追徴金

一百零八 追徴金

一百零九 追徴金

一百一十 追徴金

一百一十一 追徴金

一百一十二 追徴金

一百一十三 追徴金

一百一十四 追徴金

一百一十五 追徴金

一百一十六 追徴金

一百一十七 追徴金

一百一十八 追徴金

一百一十九 追徴金

一百二十 追徴金

一百二十一 追徴金

一百二十二 追徴金

一百二十三 追徴金

一百二十四 追徴金

一百二十五 追徴金

一百二十六 追徴金

一百二十七 追徴金

一百二十八 追徴金

一百二十九 追徴金

一百三十 追徴金

一百三十一 追徴金

一百三十二 追徴金

一百三十三 追徴金

一百三十四 追徴金

一百三十五 追徴金

一百三十六 追徴金

一百三十七 追徴金

一百三十八 追徴金

一百三十九 追徴金

一百四十 追徴金

一百四十一 追徴金

一百四十二 追徴金

一百四十三 追徴金

一百四十四 追徴金

一百四十五 追徴金

一百四十六 追徴金

一百四十七 追徴金

一百四十八 追徴金

一百四十九 追徴金

一百五十 追徴金

一百五十一 追徴金

一百五十二 追徴金

一百五十三 追徴金

一百五十四 追徴金

一百五十五 追徴金

一百五十六 追徴金

一百五十七 追徴金

一百五十八 追徴金

一百五十九 追徴金

一百六十 追徴金

一百六十一 追徴金

一百六十二 追徴金

一百六十三 追徴金

一百六十四 追徴金

一百六十五 追徴金

一百六十六 追徴金

一百六十七 追徴金

一百六十八 追徴金

一百六十九 追徴金

一百七十 追徴金

一百七十一 追徴金

一百七十二 追徴金

一百七十三 追徴金

一百七十四 追徴金

一百七十五 追徴金

一百七十六 追徴金

一百七十七 追徴金

一百七十八 追徴金

一百七十九 追徴金

一百八十 追徴金

一百八十一 追徴金

一百八十二 追徴金

第一條 本法ハ陸軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタルモノニ之ヲ適用ス

第二條 本法ハ陸軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
一 第六十四條乃至第六十七條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
二 第七十四條ノ罪

三 第七十九條乃至第八十五條ノ罪
四 第八十六條乃至第八十九條ノ罪
五 第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪

六 第九十五條第一項、第九十六條、第九十七條第二項及第九十九條ノ罪

第三條 本法ハ第二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條 帝國軍ノ占領地ニ於テ陸軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノト看做ス

第五條 帝國外ニ在ル部隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ部隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條 陸軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條 陸軍軍人共同作戰ニ從テ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ
一 陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク
二 召集中ハ在郷軍人
三 召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人
四 前二號ニ記載シタル者ハ外陸軍ノ制服着用中又ハ現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人
五 志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

第九條 左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス
一 陸軍所屬ノ學生、生徒
二 陸軍軍屬
三 陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 陸軍將校相當官、陸軍准士官、海軍將校、同相當官、海軍候補生及准士官ハ陸軍將校ニ準ス

陸軍士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者亦同シ

第十一條 陸軍士官ノ候補者ニシテ下士ノ階級ニ在リテ士官ノ勤務ニ服セサル者ハ陸軍下士ニ準ス

第十二條 陸軍ノ兵役ニ在リテ官等、等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ兵卒ノ階級ニ在ル者亦同シ

第十三條 在郷軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ役ニ在ル者、陸軍ノ現役ニ在リテ未タ入營セサル者、陸軍ノ歸休兵及退役陸軍將校、同相當官、准士官ヲ謂フ

第十四條 陸軍軍屬ト稱スルハ陸軍文官、同待遇者及宣誓シテ陸軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ但シ

豫備又ハ退職ノ文官ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法ニ於テ海軍軍人ト爲テ者ヲ謂フ

第十六條 上官ト稱スルハ命令關係アル陸軍軍人間ニ於テ命令權有スル者ヲ謂フ

第十七條 司令官ト稱スルハ軍隊ノ司令ニ任ズル陸軍軍人ヲ謂フ

第十八條 哨兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守地ニ在ル陸軍軍人ヲ謂フ

第十九條 部隊ト稱スルハ陸軍ノ軍隊、官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル陸軍ノ特設機關ヲ謂フ

第二十條 軍中ト稱スルハ左ニ記載シタル部隊ニ在ル場合ヲ謂フ

一 戰時ノ體勢ヲ執リタル部隊但シ留守部隊、衛戍勤務ニ服スル後備又ハ國民諸隊、戰地以外ノ地ニ在ル輸送又ハ補給諸機關ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク

二 戰時ノ體勢ヲ執ラサルモ對敵狀態ニ在ル部隊

三 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル部隊

第二十一條 陸軍ニ於テ死刑ヲ執行スル陸軍法衙管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第二十二條 多衆共同ハ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前ニ在ル部隊ノ急迫ニ臨ミ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ由テタル行爲ハ之ヲ罰セズ

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪罰爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條 本法及海軍刑法ニ於テ俱ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ陸軍軍人ニ準ズル者ト雖海軍軍人ニ對シテハ海軍刑法ヲ適用ス

第三編 罪ノ種類及本刑ノ輕重

第二十五章 叛亂ノ罪

第二十五條 黨ヲ結ビ兵器ヲ執リ反亂爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ヲ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條 反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ビ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十七條 左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 軍隊又ハ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スル

二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スル

三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スル

四 敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スル

五 敵國ニ降ラシムル爲司令官ヲ強要スル

六 敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又之ヲ逃走セシムルコト

第二十八條

敵國ヲ利スル爲ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一 要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用

スルコト能ハサルニ至ラシムルコト

二 水陸ノ通路、橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ軍隊、艦船ノ往來ノ妨害ヲ生

セシムルコト

三 司令官軍隊ヲ率キテ守地若ハ配置ノ地ニ就カズ又ハ其ノ地ヲ離ルコト

四 隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ其ノ連絡集合ヲ妨害スルコト

五 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト

六 命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛偽ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト

七 造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十九條 前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上

ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第三十條 反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲ニ前二條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ

三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十一條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十二條 第二十五條乃至第三十條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役

又ハ禁錮ニ處ス

第三十三條 第二十五條又ハ第二十六條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未以事ヲ行ハサル前自

首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第三十四條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第三章 擅權ノ罪

第三十五條 司令官外國ニ對シテ故ク戰闘ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條 司令官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ク戰闘ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條 司令官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ軍隊ヲ進退シタルトキハ

死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條 命令ヲ待タズ故ク戰闘ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章 辱職ノ罪

第四十條 司令官其ノ盡メキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降服又ハ要塞ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處

ス

第四十一條 司令官野戰ノ時ニ在リテ隊兵ヲ率キ敵ニ降リタルトキハ其ノ盡メキ所ヲ盡シタル

場合下雖六月以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條 司令官敵前ニ於テ其ノ盡メキ所ヲ盡サスシテ隊兵ヲ率キ逃避シタルトキハ死刑ニ

處ス

第四十三條 司令官軍隊ヲ率キ故ク守地若ハ配置ノ地ニ就カズ又ハ其ノ地ヲ離レタルトキハ左

ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條 司令官出兵ヲ要求スル權ヲ官憲官其ノ要求ヲ受ケ故夫ク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十五條 將校部隊若ハ一部ノ兵員ヲ率テ又ハ之ニ屬シ輸送船舶ニ在リテ敵ノ艦船ニ遭遇シタリ際其ノ艦ヘキ所ヲ盡サスシテ其ノ船舶ヲ退去シタルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四十六條 部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎮定ノ方法ヲ盡ササル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十七條 哨兵故ナク守地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條 哨兵睡眠又ハ酩酊シ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十九條 衛兵、控兵、巡察、斥候其ノ他警戒又ハ傳令ノ勤務ニ服スル者故ナク勤務ノ場所若ハ隊伍ヲ離レタルトキハ又ハ到ルヘキ場所ニ到ラサルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十條 故ナク規則ニ依ラズシテ哨兵ヲ交代セシメ其ノ他哨令ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ五年以上ノ禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十一條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ斥候、巡察又ハ偵察ノ勤務ニ服スル者虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若シ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故夫ク之ヲ傳達セサルトキ亦前項ニ同シ

第五十二條 軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十三條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ十年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第五十四條 健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ配給シタル者ハ十年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第五十五條 從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
 第五十六條 第四十條、第四十二條、第四十三條、第四十五條、第四十七條、第四十九條、第五十一條、第五十三條乃至五十五條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十條 抗命ノ罪
 第五十七條 上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若クハ十年以上ノ禁錮ニ處ス
 二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十八條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十九條 暴行ヲ爲スルニ當リ上官ノ制止ニ從テ拒絶者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十條 暴行ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ無期若クハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十二條 上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑、無期若クハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若クハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十三條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條 哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條 哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條 哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條 哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條 哨兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條 上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十一條 職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條 第六十條乃至第七十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章 侮辱ノ罪

第七十三條 上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若ハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條 哨兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章 逃亡ノ罪

第七十五條 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カザル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 戰時陸軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十六條 黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七

一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル者ハ、
 一 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 三 其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十七條 敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
 第七十八條 第七十五條第一號、第七十六條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第八章 軍用物損壞ノ罪
 第七十九條 陸軍ノ工場、船舶、戰鬪ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス
 第八十條 露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 二 其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス
 第八十一條 火藥、汽罐其ノ他激發スベキ物ヲ破毀セシメテ第二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ
 第八十二條 第七十九條ニ記載シタル物又ハ陸軍戰鬪ニ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸交通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト不能ナルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス
 第八十三條 兵器、彈藥、糧食、被服、馬匹其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ

十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第八十四條 第七十九條乃至第八十三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第八十五條 本章ノ規定ハ陸軍ト共同作戰ニ從テ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス
 第九章 掠奪ノ罪
 第八十六條 戰地又ハ帝國國ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス
 第八十七條 戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第八十八條 前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第八十九條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章 俘虜ニ關スル罪
 第九十條 俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第九十一條 俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項之目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 俘虜ヲ奪取シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條 逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條 第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章 違令ノ罪

第九十五條 哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三 其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ外哨兵ニ對シ哨令ヲ犯シタル者亦前項ニ同シ

第九十六條 在郷軍人故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受タル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二 其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

在郷軍人召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第九十八條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル虛偽ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百條 禮砲、號砲其ノ他空砲ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸、瓦石其ノ他ノ物ヲ裝填シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百一條 哨兵又ハ衛兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百二條 戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百三條 政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百四條 服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ビタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十一年六月勅令第六十四號ヲ以テ同年十月一日ヲ本法施行ノ期日ト定ム)

明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ハ之ヲ廢止ス

陸軍刑法施行法 (明治四十一年四月法律第四十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍刑法施行ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊陸軍刑法ト稱スルハ明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト

稱スルハ陸軍刑法施行前ニ施行シタル法律及勅令布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 陸軍刑法施行前ニ舊陸軍刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ
 陸軍刑法ニ定メタル主刑ト舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ
 其ノ輕重ヲ定ム

陸軍刑法ニ定メタル刑

舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑

死 刑

死 刑

無期懲役

無期徒刑

無期禁錮

無期流刑

有期懲役

有期徒刑

有期禁錮

有期流刑、重懲役、輕懲役、重禁錮、輕禁錮、重禁錮

第三條 刑法施行法第三條ノ規定ハ前條ニ定メタル刑ノ對照ニ之ヲ準用ス

第四條 刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、剝奪官職、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加スヘキトキト雖之ヲ附加セス前項ノ場合ニ於テハ將校ニ非スシテ官職ヲ有スル者將校ニ在リテ剝奪官職附加スル刑ニ該ルトキト雖其ノ官職ヲ失ハス

第五條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行前又ハ後ニ確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖陸軍刑法ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ陸軍刑法ヲ適用シタルトキト雖舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第六條 左ニ記載シタル者陸軍刑法施行前更ニ陸軍刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル舊陸軍刑法ノ罪ヲ犯シ陸軍刑法施行後其ノ罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ陸軍刑法ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者

三 其ノ執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル一罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪ト

ニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖其ノ罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル數罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪ト

ニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ定マリタル一ノ重キ罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シ

第十條 陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シ

タル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シ

タル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シ

タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ餘罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖確定裁判アリタル罪ト併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行後確定裁判アリタル後陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖其ノ罪ト併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 陸軍刑法ノ罪ト刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ト併合罪タルヘキ場合ニ於テハ刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ヲ陸軍刑法ノ罪ト見做シ第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十二條 第六條第一項各號ニ記載シタル者陸軍刑法施行後有期懲役ニ該ル陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者トシテハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 陸軍刑法施行後ハ舊陸軍刑法又ハ海陸軍刑律ノ刑ニ處セラレタル者ト雖刑ノ執行、假出獄及時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但シ死刑ニ付テハ陸軍ニ於テ之ヲ執行スル場合ニ限り陸軍刑法ノ規定ヲ準用ス他ノ法律ニ依リ處セラレタル死刑ニ付亦同シ

第十四條 陸軍刑法施行後ハ他ノ法律ニ依リ處セラレタル罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニハ軍法會議ニ於テハ理事其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十五條 陸軍刑法施行後ハ刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑ニ處スヘキ者ト雖刑ノ執行ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

第十六條 陸軍刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 剝奪公權、停止公權及監視ノ言渡ハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊陸軍刑法ノ罪名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ規定ハ陸軍刑法施行ノ爲變更セラレルコトナシ

第十九條 刑法施行法第二十九條及第三十條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ陸軍刑法ノ罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 刑法施行法第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ陸軍刑法ニ定メタル刑又ハ舊陸軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條 陸軍刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役又ハ一年以上六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊陸軍刑法ノ剝奪公權附加セラシ又ハ之ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ト看做ス舊陸軍刑法ノ剝奪公權附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ニ付亦同シ

第二十二條 他ノ法律中舊陸軍刑法第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ナシ場合ニ付テハ舊陸軍刑法第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ陸軍刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十三條 舊陸軍刑法ト刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トノ關係ニ付テハ舊陸軍

刑法ヲ舊刑法ト看做シ刑法施行法第二條第三條、第五條、第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ判官ニ關シテハ本法第四條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸軍治罪法ニ於テ軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第三號乃至第三號、第五號及第九條第一項第一號第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條第二項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十五條 刑事訴訟法第八條ノ規定ハ軍法會議ニ於テ審判スル事件ニ之ヲ準用ス

第二十六條 陸軍治罪法中復權及特赦ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十七條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 軍法會議ニ於テハ刑ノ執行猶豫ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ法ノ言渡ト同時ニ之ヲ言渡スヘシ

第二十九條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ管轄スル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所屬部隊ノ軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ取消シ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三十條 前三條ノ判決及其ノ言渡ニ付テハ陸軍治罪法中判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十一條 軍法會議ニ於テハ證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費其ノ他ノ給與ニ關シ刑法施行法第六十三條及至第六十六條ノ規定ヲ準用ス但シ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ行フヘキ職務ハ理事之ヲ行フヘシ

附則 陸軍治罪法第六十條ノ規定ハ本法第六十條ノ規定ニ準用ス

本法ハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

(明治四十一年九月勅令第二百十八號)

朕陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル軍人
 軍屬等ニシテ其身分ヲ失ヒタル者ニ關スル取扱手續

(明治四十一年九月陸軍省達第六十六號)

軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル軍人軍屬等ニシテ其ノ身分ヲ失ヒタル者ニ關スル取扱手續左ノ通定メ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者陸軍刑法第八條第一號乃至第三號第五號又ハ第九條第一項第一號第二號ニ記載シタル身分ヲ失ヒタルトキハ所屬長官ヨリ宣告書寫(別ニ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタルモノナルトキハ其ノ言渡書寫共)ヲ添ヘ本人ノ刑ノ執行猶豫中ナル旨ヲ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ通報スヘシ

第二條 軍法會議ニ於テ執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタルトキハ理事ハ其ノ旨及取消ノ原因ヲ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、所轄警察署及本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ其ノ執行猶豫

ヲ取消シタル軍法會議、執行猶豫ヲ言渡シタル軍法會議ト異ルトキハ猶豫ヲ言渡シタル軍法會議ニ、本人最終ノ所屬長官共ノ執行猶豫ヲ取消シタル軍法會議又ハ執行猶豫ヲ言渡シタル軍法會議ノ長官ニ非サルトキハ該所屬長官ニ亦通知スヘシ

第三條 執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタルトキハ理事ハ取消言渡書寫ヲ添ヘ本人ヲ其ノ地ノ陸軍監獄ニ交付スヘシ

陸軍監獄長其ノ交付ヲ受ケタルトキハ取消言渡書寫ヲ添ヘ本人ヲ最近ノ普通監獄ニ送致スヘシ

陸軍刑法陸軍刑法施行法海軍刑法及海軍刑法施行法

ヲ臺灣ニ施行スルノ件 (明治四十一年九月勅令第二百二十號)

朕陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍刑法陸軍刑法施行法海軍刑法及海軍刑法施行法

ヲ樺太ニ施行スルノ件 (明治四十一年九月勅令第二百二十一號)

朕陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍刑法、陸軍刑法施行法、海軍刑法及海軍刑法施行法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三編 海軍刑法

海軍刑法 (明治四十一年四月法律第四十八號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海軍刑法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍刑法

第一編 總則

第一條 本法ハ海軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二條 本法ハ海軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第六十二條乃至第六十五條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪

二 第七十二條ノ罪

三 第七十八條乃至第八十五條ノ罪

四 第八十六條乃至第八十九條ノ罪

五 第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪

六 第九十五條、第九十六條、第九十七條第二項、第九十八條及第百條ノ罪

第三條 本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條 帝國軍ノ占領地ニ於テ海軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノト看做ス

海軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 帝國外ニ在ル海軍官衙團隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ官衙團隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條 海軍ト共同作戰ニ從フ陸軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條 海軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ニ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 海軍軍人ト稱スルハ海軍ノ高等武官、候補生、准士官及下士卒ニシテ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

一 現役ニ在ル者但シ召集中ニ非サル歸休兵ヲ除ク

二 豫備役後備役ニ在リ召集中ノ者

三 前二號ニ記載シタル者ノ外海軍制服着用中ノ者

第九條 左ニ記載シタル者ハ海軍軍人ニ準ス

一 海軍所屬ノ學生、生徒

二 海軍軍屬

三 海軍ノ勤務ニ服スル陸軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 海軍軍屬ト稱スルハ海軍文官、同待遇者及宣誓シテ海軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ

第十一條 陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法ニ於テ陸軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十二條 上官ト稱スルハ命令關係アル海軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ卒ハ總テ同等トス

第十三條 指揮官ト稱スルハ艦船、軍隊ヲ指揮スル海軍軍人ヲ謂フ

陸海軍用船又ハ拿捕船舶ニ乘組ミ之ヲ監督スル海軍軍人ハ指揮官ニ準ス

第十四條 守兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守所ニ在ル海軍軍人ヲ謂フ

第十五條 事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎮定ニ從事スル艦船、軍隊ニハ戰時ノ規定ヲ適用ス

第十六條 海軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ海軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第十七條 多衆共同ノ暴行ヲ鎮壓スル爲又ハ敵前若ハ艦船危急ノ際ニ於テ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十八條 前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第十九條 本法及陸軍刑法ニ於テ俱ニ罪スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ海軍軍人ニ準スル者ト雖陸軍軍人ニ對シテハ陸軍刑法ヲ適用ス

第二編 罪

第一章 叛亂ノ罪

第二十條 黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十一條 反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ヒ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十二條 左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

- 一 軍隊又ハ艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト
 - 二 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト
 - 三 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト
 - 四 敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト
 - 五 敵國ニ降ラシムル爲指揮官ヲ強要スルコト
 - 六 敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト
- 第二十三條 敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
- 一 艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト
 - 二 水陸ノ通路、橋梁、燈臺、浮標ヲ損壞又ハ壅塞シ其ノ他ノ方法ヲ以テ船艦軍隊ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト
 - 三 指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率キテ守所若ハ配置ノ場所ニ就ガス又ハ其ノ場所ヲ離ルルコト

四 艦隊、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ艦船、隊兵ノ連絡集合ヲ妨害スルコト

五 兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト

六 命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虚偽ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト

七 造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十四條 前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二十五條 反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條 第二十條乃至第二十五條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十八條 第二十條又ハ第二十一條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第二十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章 擅權ノ罪

第三十條 指揮官外國ニ對シ故ナク戰鬪ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十一條 指揮官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰鬪ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十二條 指揮官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ艦船、軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス